



ケ 5
68
24





信玄全集末書上巻之二

城取巻之上

- 一 城に敵舟懸置の地形と知事
- 二 城の地形と三ヶ所の事
- 三 依地取城の性急知事
- 四 城取城練急を常事
- 五 城取城舟の真三段の知事
- 六 城取城の急を常事
- 七 小口練取の事
- 八 草角の事
- 九 真の角の事

十 草代丸るあろ

十一 真丸るあ福

十二 出の馬出

十三 條るあろあ

十四 曲人のろあつ下の練歌の事

十五 各馬出れ虎口圖

十六 墮虎口奇馬の事

十七 陽の虎口の事

十八 神の練歌の事

十九 真虎口のろあ奇圖

二十 二門ひろせまの事

一 武者ろまろりろ事

一 ろまろりろ事

一 櫓のらんくのよれま

一 門のた右ひろせまのろ

一 門地ろろり事

廿一 門扉得金馬のろ

廿二 ころろり門の事

廿三 櫓木二ヶ条れ事

廿四 慶の慶治の事

廿又武者乞三後并大乞の事

廿六廊下傍の事

廿七再傍の事

廿八水やうり傍

Handwritten notes in a cursive style, possibly a transcription of the text on the left page.

信玄全集末書上巻之二 城取巻之上

○一城は敵并懸置の地形と云ふ

一城と云ふは六のありあわりの才一國ちり居城才

二一郡或は中郡計領知と云ふ士大おろ居

城才二三番目の城才四新島城才五付城才

六二島城と云ふ

才一才大才小才たう居城あり懸置の地形

肝勇一用也一懸置の地と云ふを云ふ

くも傍く南の長く東り南り西り流氷

如く海女もあつては異國と云ふ

しと地と云ふ又二才をみあつてと云ふ相又

不世國一も大よう右のていど地あり
 必居城一もりきりしふありこれと長久
 の地勢とけりあ。夫が二一も或は二ヶ國
 も大將の居城と敵ありとせまらふゆとあ
 一と二の一戦とをけきとちの城一所
 國の地勢と用ゆふありのあり
 二國十ヶあも夫ヶ國乃玉天下ととも支配あり
 大將の居城一は本城のめぐりの平陸あり
 備置りゆふ又十里六十里乃内外の世國
 用人ふりのあり
 和日國とたりち天下と知れふの勢として何

そ世國と用ゆふや城もあつても不世しん
 居城一もと城とともふ也一旦の乃理能格
 一もても後人の能意一もか格の地あり
 可も城味
 守二一都守都り士大將居城一は防戦
 紫園りあるれい城一ありのそちありと
 城あり二十町三拾町の紫園り地と可も
 あり或は城地も紫園一も又防戦も紫園
 の地ち甲列都内の界の版位列一して吾妻
 たり後列久世と龍城紫園一も又防戦と
 不世地あるれいそと人質ちくふりて城

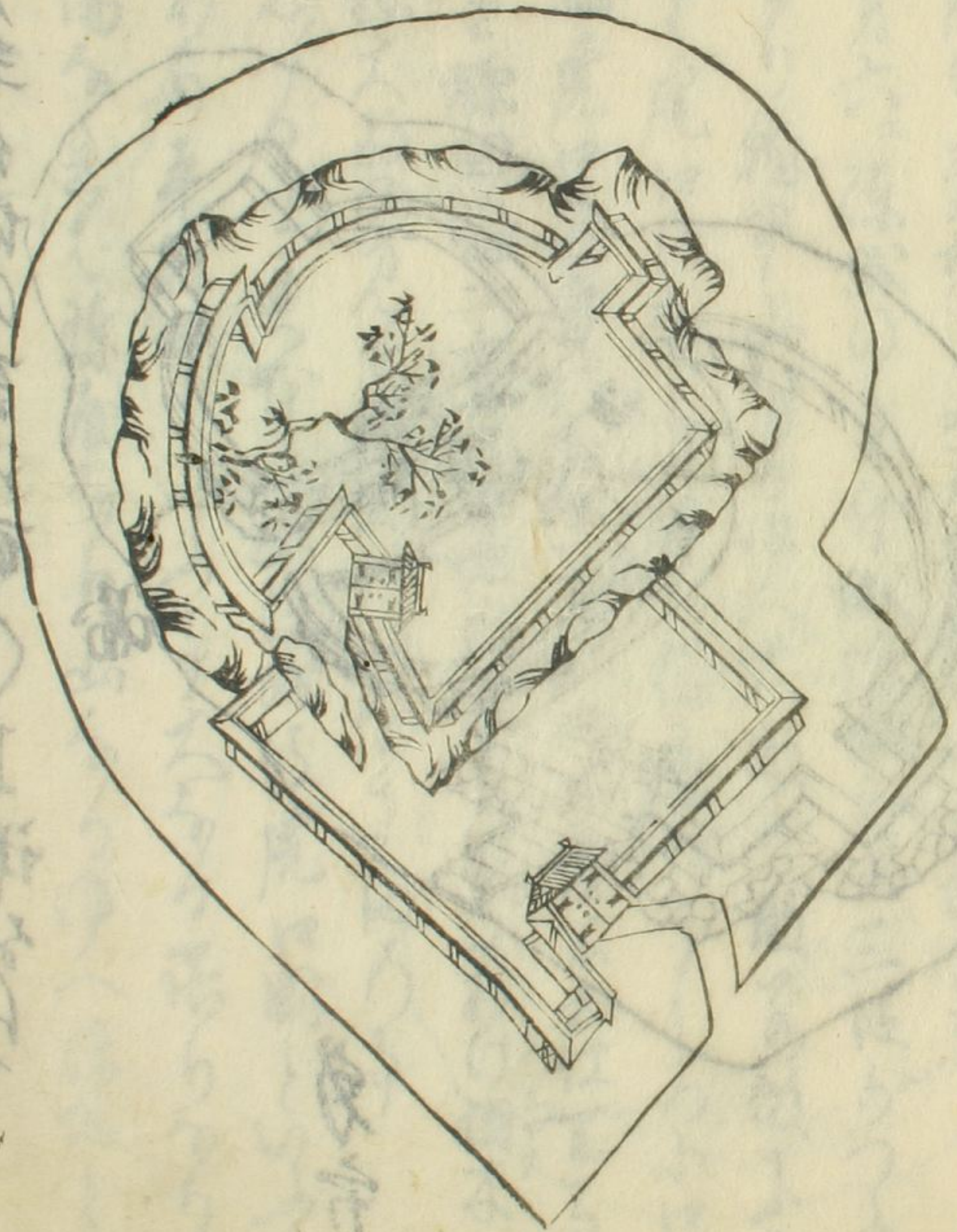
あり

守三高平城と岡の場同くく籠城のそ
 めるれを城野に繩をりまへて但地
 つまき籠城して居るに敵の兵十方一も
 廻り射るに地を是と後乃城と云城とも
 一繩をりまへるありされども山城に
 かくの法に繩をりまへるあり又城を
 まさくもあき不踏は押へぐさき地あり
 あれを陽り地をねは 陽一繩をりまへる也
 一城をちのさくあき郭敷多ハあわじ
 ろめあり角あれは横矢よくさるふら

日とけくくあきまへるありて捨塔
 かりわうひ方むらひ二矢乃他法あり又
 城垣の危きをまへるあき向ひに同
 下まへるあり捨塔より水城よりあき
 とあきまへるあり堅固よりありゆり
 和云あきまへるあり十倍ありて圍は何そ
 勇方ありあきめくむらひ一や於可有
 又まへるあり信同乃城に十ヶ九ヶ山城
 不用を徳と云不浄をそまへる一三
 金堀より一かあき三城を故つあり
 まへる三森林陰阻を後よあき一廣

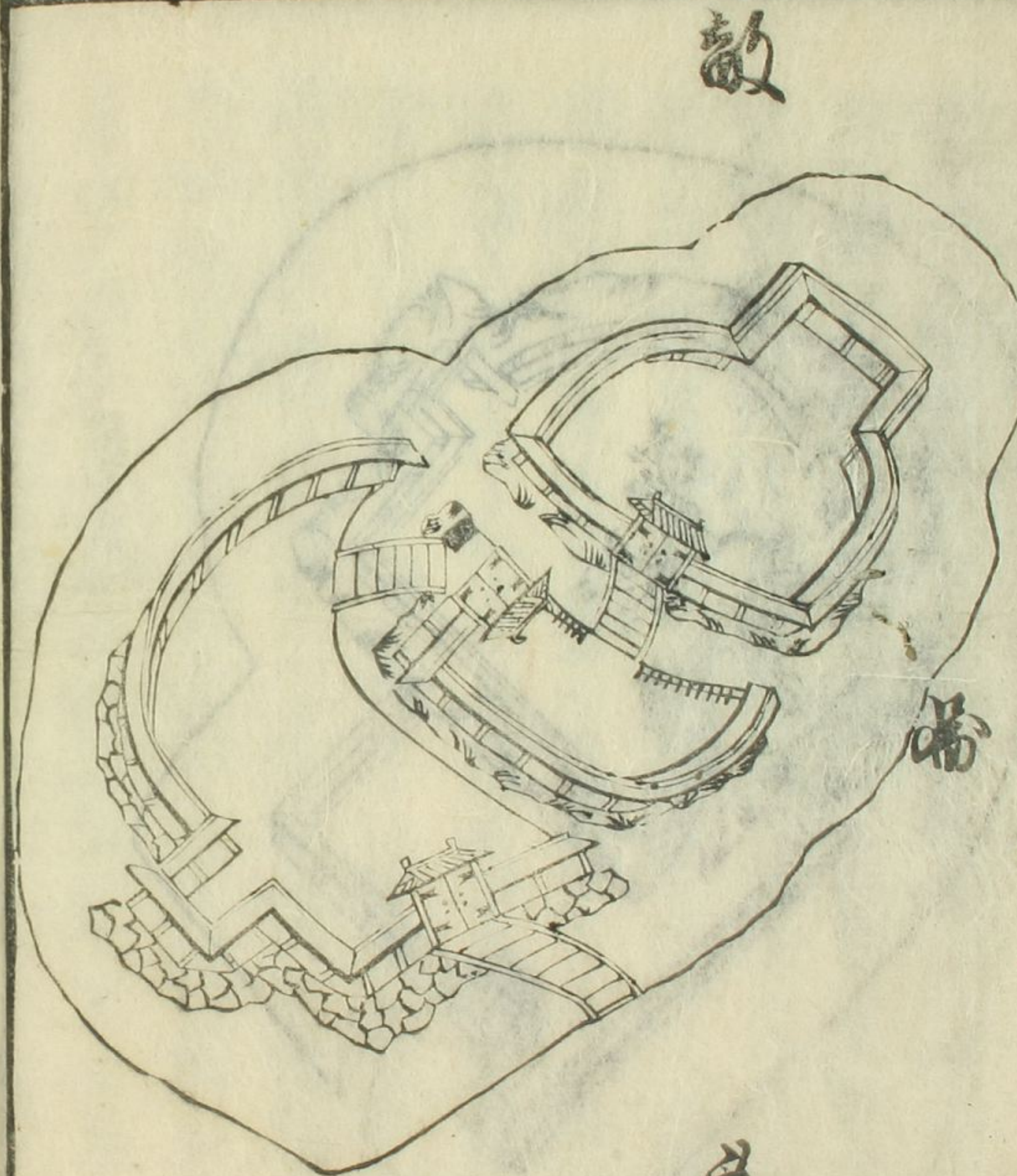
系平陸イリクと云くして多しを
 才四取お城是と教龍城乃時人教と命
 く城と龍道と云くはあはれと云ふ
 りらあはれあり

此の城は...
 龍城...
 乃時...
 人教...
 命...
 龍道...
 云く...
 はあ...
 と云...
 あり

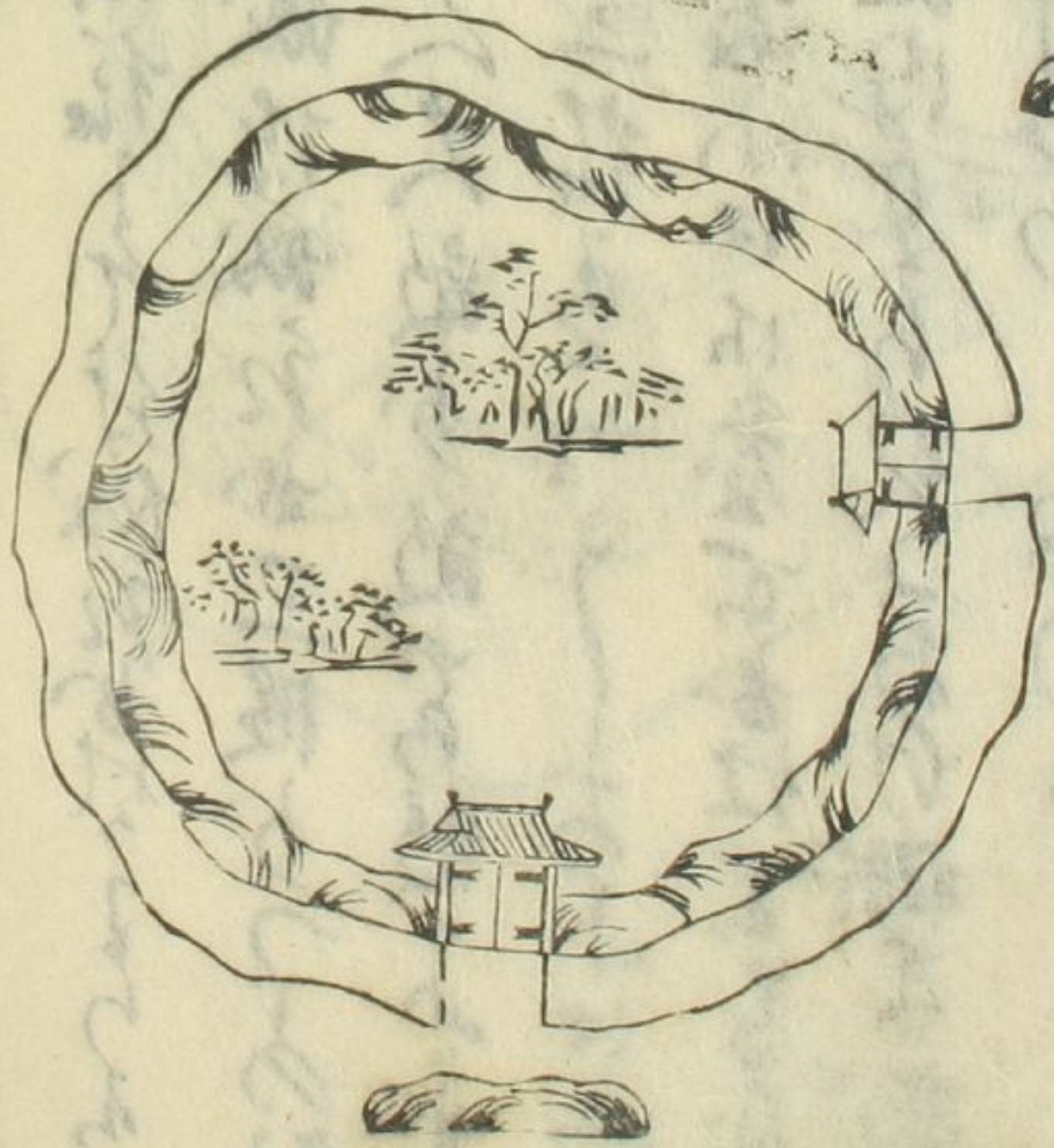
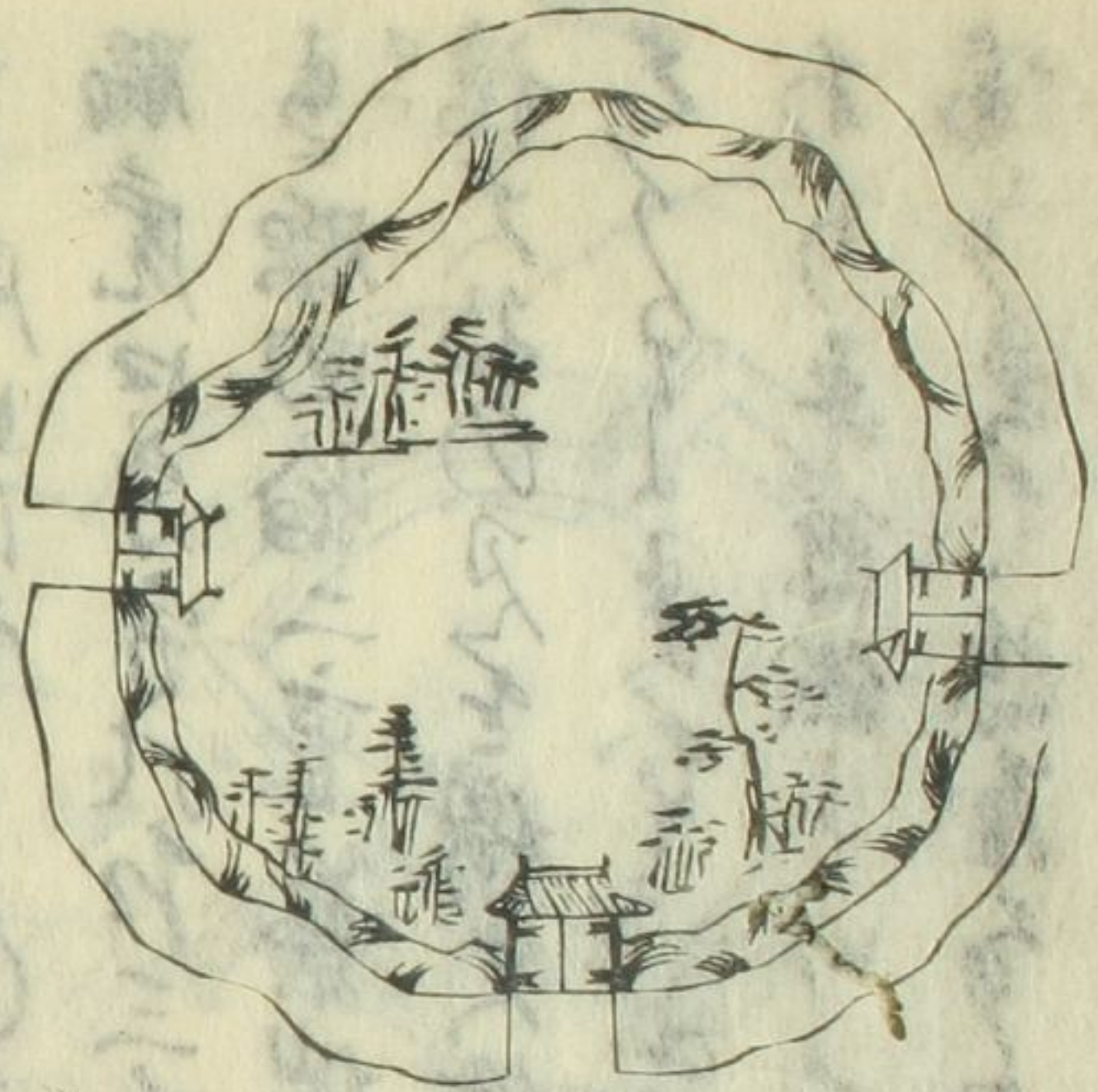


此の城は...
 龍城...
 乃時...
 人教...
 命...
 龍道...
 云く...
 はあ...
 と云...
 あり

才五、付城の事いふ、
フミラカ
 一、詳あり



虎口の石橋と小倉掛橋とを付城に於ては、
 才六、陳城の多付城、陳城に於て三段あり、
 才七、陳城中、山あり、ゆへに大敵少敵あり、
 才八、虎口の石橋と小倉掛橋とを付城に於ては、
 脇虎口の守り、三橋あり、
 才九、陳城は虎口の圖といふ、
 才十、陳城は虎口の圖といふ、
 才十一、陳城は虎口の圖といふ、
 才十二、陳城は虎口の圖といふ、
 才十三、陳城は虎口の圖といふ、
 才十四、陳城は虎口の圖といふ、
 才十五、陳城は虎口の圖といふ、
 才十六、陳城は虎口の圖といふ、
 才十七、陳城は虎口の圖といふ、
 才十八、陳城は虎口の圖といふ、
 才十九、陳城は虎口の圖といふ、
 才二十、陳城は虎口の圖といふ、
 才二十一、陳城は虎口の圖といふ、
 才二十二、陳城は虎口の圖といふ、
 才二十三、陳城は虎口の圖といふ、
 才二十四、陳城は虎口の圖といふ、
 才二十五、陳城は虎口の圖といふ、
 才二十六、陳城は虎口の圖といふ、
 才二十七、陳城は虎口の圖といふ、
 才二十八、陳城は虎口の圖といふ、
 才二十九、陳城は虎口の圖といふ、
 才三十、陳城は虎口の圖といふ、
 才三十一、陳城は虎口の圖といふ、
 才三十二、陳城は虎口の圖といふ、
 才三十三、陳城は虎口の圖といふ、
 才三十四、陳城は虎口の圖といふ、
 才三十五、陳城は虎口の圖といふ、
 才三十六、陳城は虎口の圖といふ、
 才三十七、陳城は虎口の圖といふ、
 才三十八、陳城は虎口の圖といふ、
 才三十九、陳城は虎口の圖といふ、
 才四十、陳城は虎口の圖といふ、
 才四十一、陳城は虎口の圖といふ、
 才四十二、陳城は虎口の圖といふ、
 才四十三、陳城は虎口の圖といふ、
 才四十四、陳城は虎口の圖といふ、
 才四十五、陳城は虎口の圖といふ、
 才四十六、陳城は虎口の圖といふ、
 才四十七、陳城は虎口の圖といふ、
 才四十八、陳城は虎口の圖といふ、
 才四十九、陳城は虎口の圖といふ、
 才五十、陳城は虎口の圖といふ、
 才五十一、陳城は虎口の圖といふ、
 才五十二、陳城は虎口の圖といふ、
 才五十三、陳城は虎口の圖といふ、
 才五十四、陳城は虎口の圖といふ、
 才五十五、陳城は虎口の圖といふ、
 才五十六、陳城は虎口の圖といふ、
 才五十七、陳城は虎口の圖といふ、
 才五十八、陳城は虎口の圖といふ、
 才五十九、陳城は虎口の圖といふ、
 才六十、陳城は虎口の圖といふ、
 才六十一、陳城は虎口の圖といふ、
 才六十二、陳城は虎口の圖といふ、
 才六十三、陳城は虎口の圖といふ、
 才六十四、陳城は虎口の圖といふ、
 才六十五、陳城は虎口の圖といふ、
 才六十六、陳城は虎口の圖といふ、
 才六十七、陳城は虎口の圖といふ、
 才六十八、陳城は虎口の圖といふ、
 才六十九、陳城は虎口の圖といふ、
 才七十、陳城は虎口の圖といふ、
 才七十一、陳城は虎口の圖といふ、
 才七十二、陳城は虎口の圖といふ、
 才七十三、陳城は虎口の圖といふ、
 才七十四、陳城は虎口の圖といふ、
 才七十五、陳城は虎口の圖といふ、
 才七十六、陳城は虎口の圖といふ、
 才七十七、陳城は虎口の圖といふ、
 才七十八、陳城は虎口の圖といふ、
 才七十九、陳城は虎口の圖といふ、
 才八十、陳城は虎口の圖といふ、
 才八十一、陳城は虎口の圖といふ、
 才八十二、陳城は虎口の圖といふ、
 才八十三、陳城は虎口の圖といふ、
 才八十四、陳城は虎口の圖といふ、
 才八十五、陳城は虎口の圖といふ、
 才八十六、陳城は虎口の圖といふ、
 才八十七、陳城は虎口の圖といふ、
 才八十八、陳城は虎口の圖といふ、
 才八十九、陳城は虎口の圖といふ、
 才九十、陳城は虎口の圖といふ、
 才九十一、陳城は虎口の圖といふ、
 才九十二、陳城は虎口の圖といふ、
 才九十三、陳城は虎口の圖といふ、
 才九十四、陳城は虎口の圖といふ、
 才九十五、陳城は虎口の圖といふ、
 才九十六、陳城は虎口の圖といふ、
 才九十七、陳城は虎口の圖といふ、
 才九十八、陳城は虎口の圖といふ、
 才九十九、陳城は虎口の圖といふ、
 才百、陳城は虎口の圖といふ、



○二城の地取一三文あり

才一平城と地あり 才二平山城と地あり

才三山城の天かり

右の二つは地もくわいて縄をくわいて仕わうい

書しわり

一平城と天あり二の郭は人也三の郭は地也

郭といふも云又物ハタラキ付くは城と陰二三の

郭と陽あり縄をくわいて柵子と二三の

郭は城といふもくわいてあり

○二二依地取城の性を知り

才一水防く一々南極を 黒竜地水性也

才二南有一水曰一也
 才三西有一水曰一也
 才四東有一水曰一也
 才五中一有一水曰一也

又

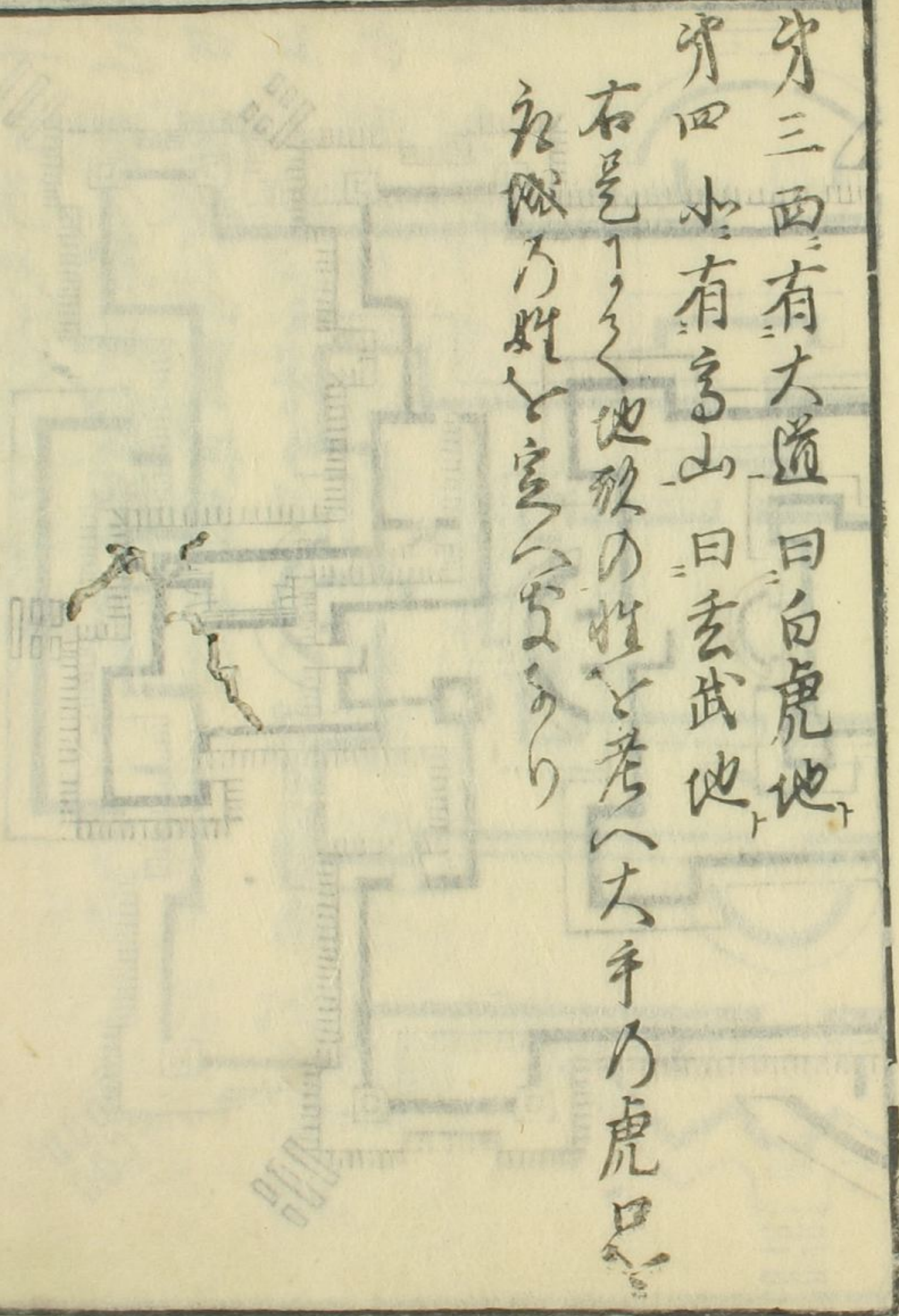
一一向東城之一也
 二一向南城之一也
 三一向西城之一也
 四一向小城之一也
 五一向隅城之一也

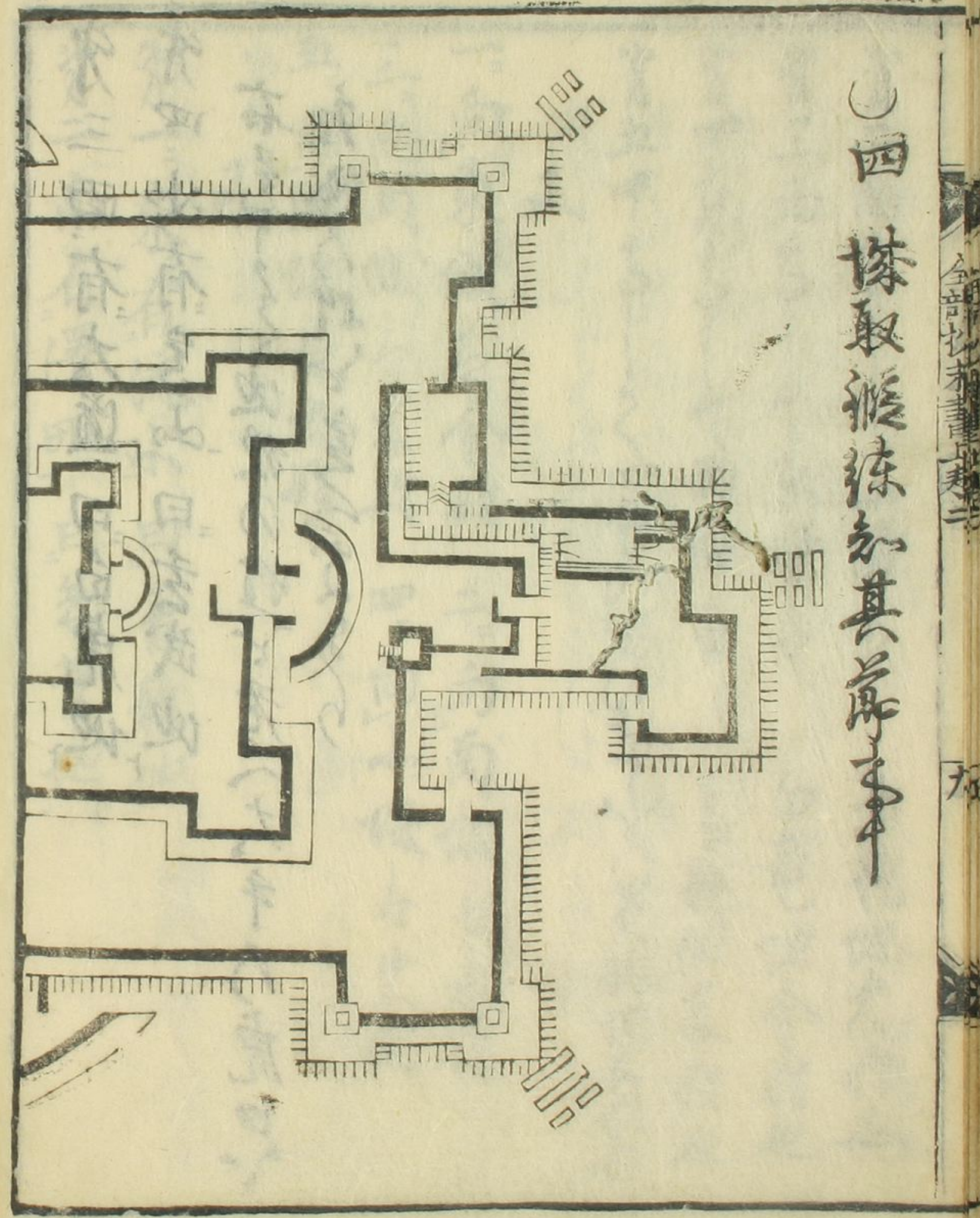
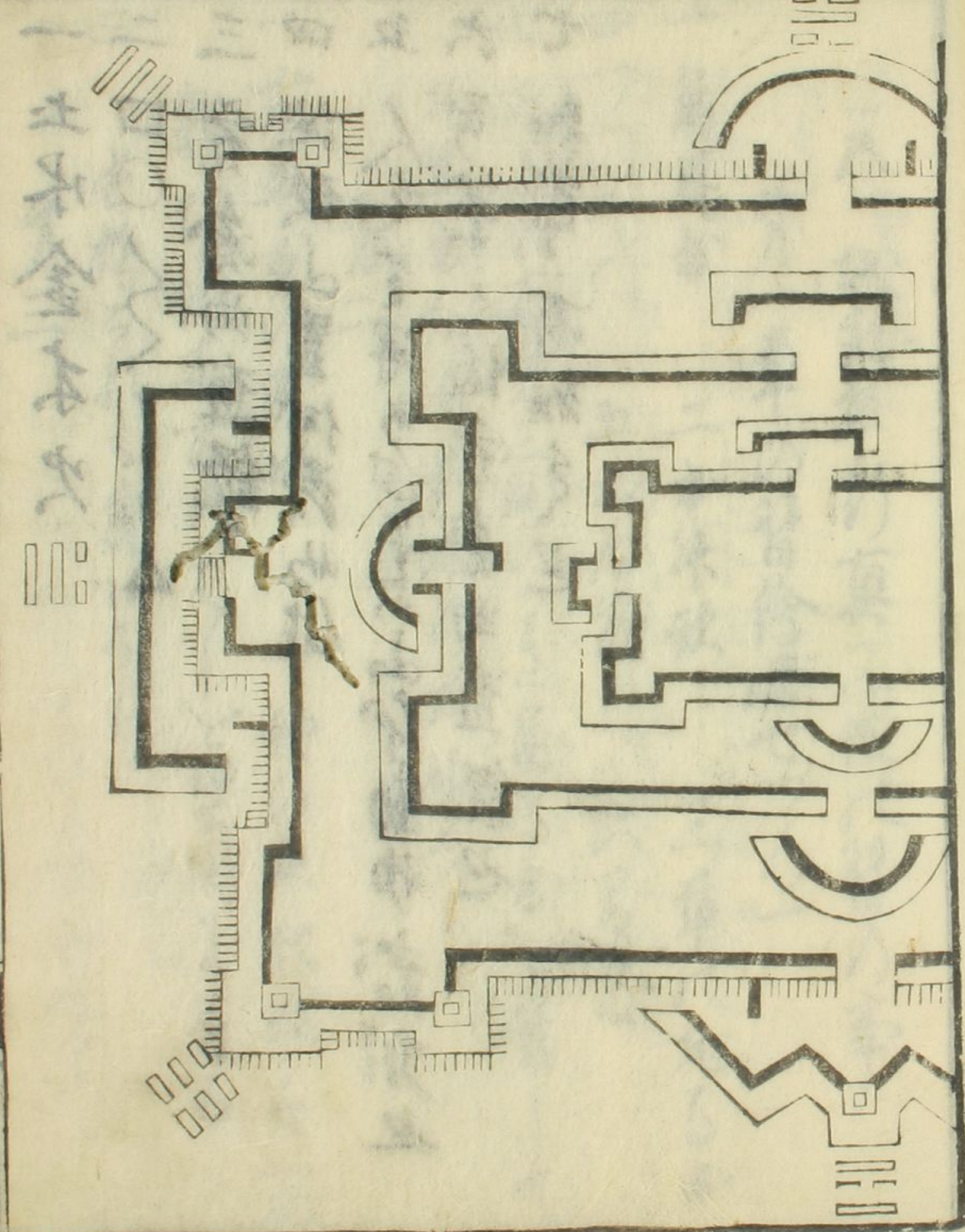
又

才一東有流冰曰青龍地
 才二南有澤畔曰朱雀地

才三西有大道曰白虎地
 才四北有高山曰玄武地
 右是一之地理之性也考一大平乃虎也
 右是一之地理之性也考一大平乃虎也

錦州府志卷之三



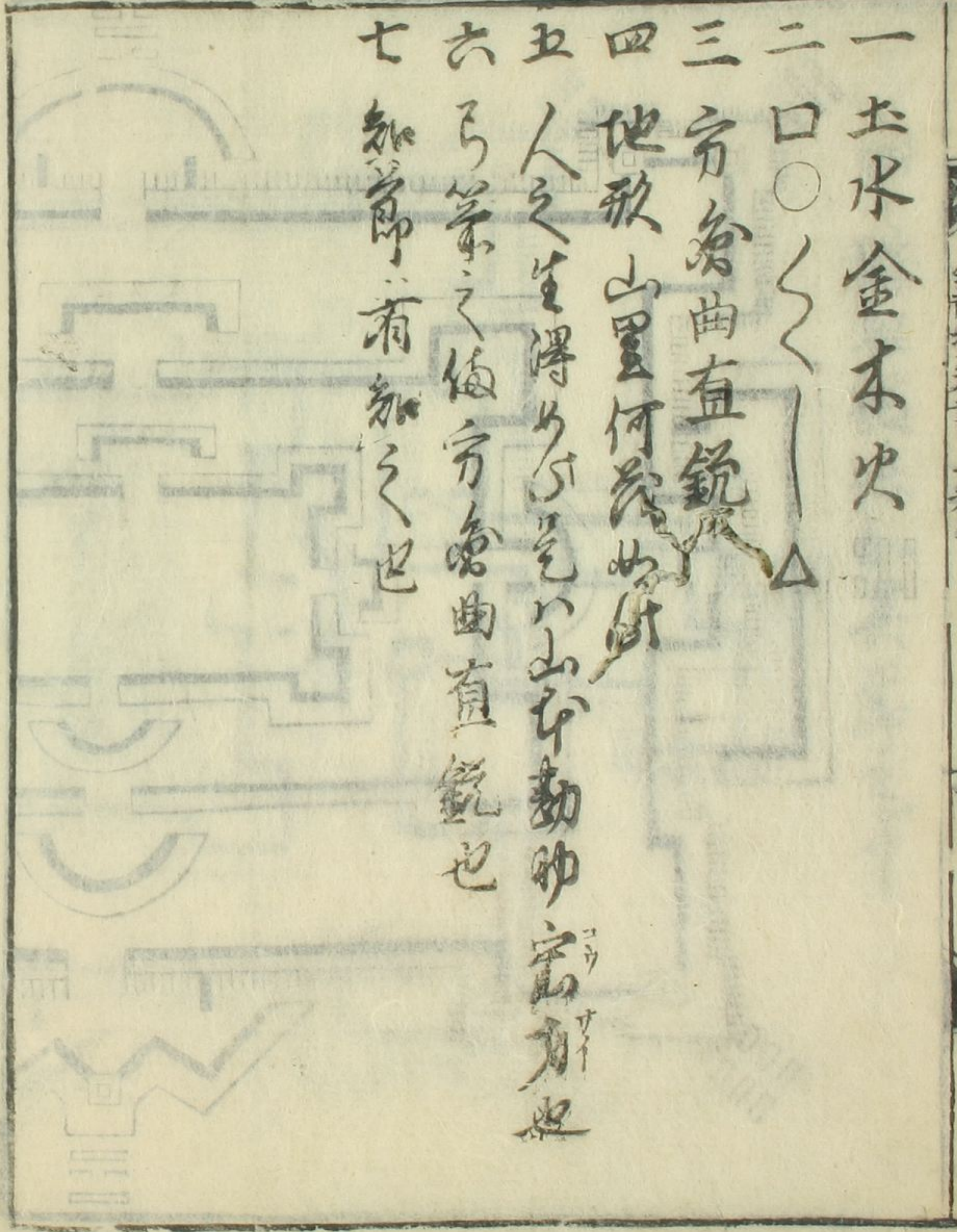


四塔取縱練如其前事

全圖抄補書上卷三

五

- 一 土水金木火
- 二 口〇くくー△
- 三 方角曲直銳
- 四 地勢山里何處也
- 五 人之生得りし是山也劫劫定方也
- 六 弓矢之儀方角曲直銳也
- 七 知節有知也



○又 城五章の真二之段に習入事

- 一 角馬書 二 水味歌 三 草花丸書
 - 四 一門二門 五 土居姿 六 二つ姿
 - 七 丸書と支方三間のうさ角馬書と書しん丸馬書あり是城の主要あり
- 方二
- 一 馬書の虎口
 - 二 神の体歌或を一の郭に城あると云ふと堅固なる
 - 三 本橋られも虎口あり
- 方三

一 後ぬけ或を池さくくあるさりやう
二 草の角るも俄の音後よ用る
三 糸秋向乃虎

才四

一 真乃丸るまひのこころ
二 虎口糸秋五八横乃をよ是か内糸秋と
わり 和云行五間とをさやあり横八呂ハ上
七呂を中六呂を下あり上乃糸秋よ四
十跨中糸秋よ三十五跨下糸秋よ三十三跨
あり

才五

一 真乃丸馬かた神の糸秋 付 支神は
二 大横くろくし個下と板不定をうけんえん

才六

一 横矢糸秋 二 横矢ひのこ
三 横矢扇風形 四 横矢麿杖
五 横矢角中くし 和曰横音とる何も音者
曲直銃なりは外と麿音のこ

才七

一 平儀の女番は付らば成る数大中か
上 五拾九間あり
中 四拾九間あり

下 四拾二回

右東西南北より四方へそ長短をさす場
 或をさす山あり或は子以て身あり但右の所
 して十六ありとしかるあり但く一
 ありと右ありとさすくそれより大ぬれ子
 又いささか身ありありありとさすく
 もあつとさすいとおりのいなり又章のい
 二國ちのなありゆへる百二十ありあり
 あり十ヶ國或は十ヶ國も領とる領の人
 りは府城を九十あり四方或は九十あり
 六十ありあり一但又 云方指は西あり

云を又四方百二十間つゝあり方八町と
 右の介り云右ありあり
 和曰園と持りのを園と改めとて信を
 別一ありは徳也園持あり人い人あり
 こと人あり情のみくことありと教ありと
 居城あり一世ありありと終くあり信云
 さへありは現者子とやわたりと大中あり
 ありありのあり教とと一い城形ととる
 のありありありありのありとありと
 一はありありありありありありあり
 ありありありありありありありあり

至^レキ^レハ^レ一^レ時^レ江^レ戸^レの^レ城^レと^レ築^レキ^レハ^レ家^レ康^レ云
 関^レ八^レ別^レト^レク^レ所^レ府^レ城^レト^レモ^レナ^レカ^レセ^レム^レト^レテ^レ唐
 け^レ流^レル^レト^レ不^レ守^レ今^レ六^レ十^レ余^レ別^レ夫^レ胡^レ人^レの^レ来
 つ^レい^レト^レモ^レナ^レカ^レセ^レム^レト^レの^レち^レら^レナ^レリ^レト^レア^レリ^レト^レテ^レ親
 か^レ道^レト^レ是^レと^レ討^レテ^レ都^レ室^レの^レ用^レと^レな^レり^レて^レ後^レ乃
 ち^レあり^レト^レ唐^レく^レむ^レる^レに^レあ^レり^レト^レ道^レか^レし^レと^レや^レう^レふ
 せ^レト^レあ^レ今^レ改^レ直^レト^レう^レト^レ入^レト^レ城^レト^レ今^レ時^レ乃
 軍^レ法^レを^レ識^レれ^レは^レ水^レの^レ邊^レと^レが^レ能^レと^レて^レち^レと^レある
 地^レと^レ切^レて^レ龜^レの^レ甲^レと^レら^レし^レと^レな^レめ^レる^レあ^レる^レと^レも
 し^レと^レ虎^レは^レし^レり^レあ^レひ^レつ^レと^レと^レて^レま^レの^レる
 か^レと^レつ^レけ^レ物^レの^レ城^レト^レ古^レ人^レの^レ故^レ城^レを^レ別^レ後^レ時^レ

の^レ系^レト^レハ^レ金^レ部^レ乃^レ弁^レの^レ言^レと^レ用^レて^レ捨^レ城^レト^レモ
 笑^レ固^レめ^レト^レ昂^レ水^レと^レ丸^レ西^レ南^レ乃^レは^レと^レ用^レと^レ井^レあ^レ
 て^レ城^レト^レ用^レ後^レ時^レ乃^レ神^レの^レ言^レと^レ用^レて^レ丸^レと^レ尚^レは^レ強^レ別
 江^レ鹿^レの^レ故^レ城^レト^レハ^レ流^レと^レ割^レの^レと^レと^レ城^レと^レ昂^レ城^レト^レ
 用^レて^レも^レあ^レと^レつ^レの^レと^レ神^レ人^レ乃^レの^レ費^レ城^レと^レなる
 た^レめ^レト^レま^レく^レの^レ繩^レと^レら^レし^レと^レ用^レら^レる^レと^レあ^レる^レと^レ
 あ^レれ^レ今^レの^レ城^レと^レ丸^レ人^レ乃^レ力^レ實^レと^レ費^レト^レ人^レ數
 賊^レの^レ損^レ益^レの^レ考^レへ^レた^レく^レぞ^レと^レた^レ具^レト^レ城^レと^レ築
 し^レと^レの^レ繩^レと^レら^レし^レと^レあ^レる^レと^レあ^レる^レと^レあ^レる^レと^レあ^レる^レと^レ
 不^レ城^レ形^レ具^レト^レし^レと^レま^レの^レ不^レ守^レ物^レ乃^レ大^レ勇^レト^レし^レ
 心^レの^レ人^レあ^レる^レと^レら^レの^レ城^レと^レ割^レて^レは^レあ^レ叶^レき

防をくくしてく移り城とね立給ひんるるを
り

単之習儀

一乃習儀九ヶ条乃事

一 辻乃馬あぶらま

虎目用

二 土橋志

三 ちりちり

四 藤乃橋

二ヶの城ハ

三ぶらもわり

不仕城二のくくり切り下橋上小庭くくりあり

六 水橋唐土川城くくり橋のくくりあり

七 城内くくりくくりくくりくくりくくりくくり

八 城内くくりくくりくくりくくりくくりくくり

其外美し濃き廊下橋上小庭くくりあり

七 かくくくりくくり

八 切縁のくくりつりつりの縁縁縁縁

曰小田系陳家康云涉陳城山を帯刀涉

陳屋乃後より内若四郎たきのくくりくくり

我志なりお決くくり早川跡三たきのくくり

くくりくくりくくりくくりくくりくくり

乃之習儀

真乃習儀九ヶ条乃事

一 陸陽和合の繩が城二三乃郭橋切くくり用

二 付城

三 陳城是くくりの習あり

四 百舌城 五 山城平保平山城は山城
 五 別事 六 城同城七 山城保城と申す
 八 山城くろくしと申す
 九 しろく虎に女神の神形丸るおしよし
 十 勢るおしよし組平分お配わり或
 ちておしよし捨捨し水のちわり又番
 城の勢るおしよしやうわり
 十一 小口と申す 十二 勢るお居
 十三 しろくひ指奥と廊下又しろくひ指
 ちておしよしと短わり或ちてお指
 しろく双方同意

十四 しろくしと申す 十五 勢るお居
 十六 五城乃保るおしよしと申す
 十七 長保しと申す
 十八 陰の城乃保るおしよしと申す
 十九 陰の城乃保るおしよしと申す
 二十 陽わり陽の城しと申す
 二十一 陽わり陽の城しと申す

真代習巻

右保知草乃真乃三波と申す
 為七波と申す

ひりりのたりの才二段乃以習一の故城
 の勝もあしく致さるると今あつて
 取らんとに繩の利あり才三段真の十八
 ケ條の定りさるる格のく繩たりのさる
 ろしくひたりのたるとい真乃丸るか一と
 以郭として敵と謀るること同草の習
 の中より真乃るも等乃ありさるるか答云
 草と城の太教とあつてあひりりのためり
 又問あつてを真の平よりあつて陰陽和合の
 繩とも何そ草乃平よりあつて名とあつ
 てさるるや 答云平城の和合りるるよ

あしくさるるを城といわくを平城といふと云
 りのあり和合のさるるといへる平城は不
 用して不計ゆへに平城の名とさるるあ
 一 陰陽和合の繩のり切し用二 付城三
 城城是のあり習りるると編入さるる師
 の心分るる一
 一 城の繩をりあつてさるるまうく
 是の心 城とあつて繩張のたのさるるあ
 さくなくあつて一は城といは乃はあつて子
 細さ大城はあつて以籠城さるる事あ

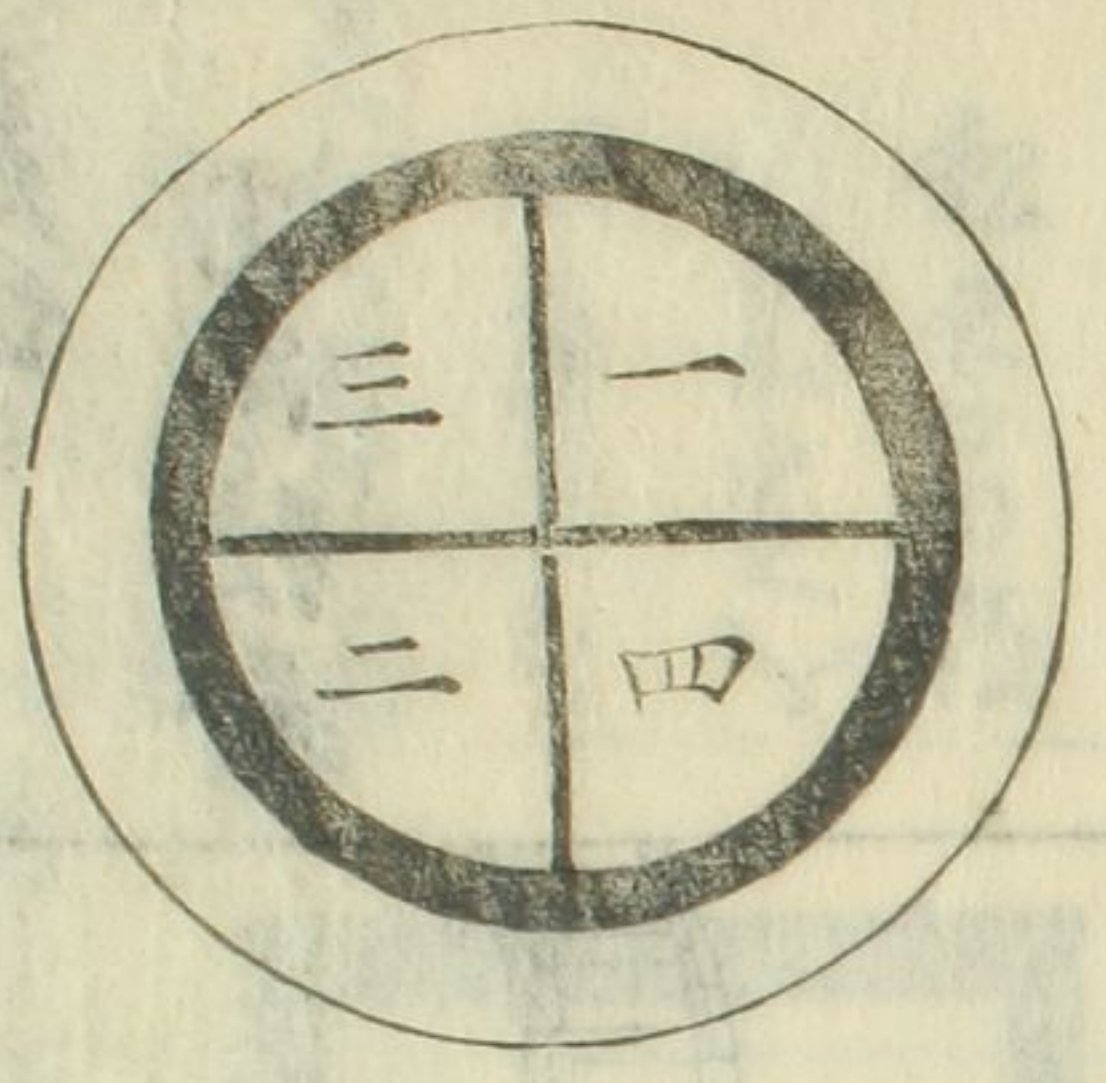
金部抄末書上卷二

七

ひつりくもくもつるを城肉とすくおひ
ろしまたろくおをろの城を内庭とす
し横をと用たり。城を多とるなり

和曰城の大小をほつる人々しとて大なるも
もちのさくをさるありふ城より於て可
あり地形のをと城とを詳見むるなりは城を
ちとさるもをさるるあり強きを城と
来てしとて地形と切捨るるなりとの事
に書しとすつりの城よりちとて
の心はひが

○六 城面ちのさくをさる



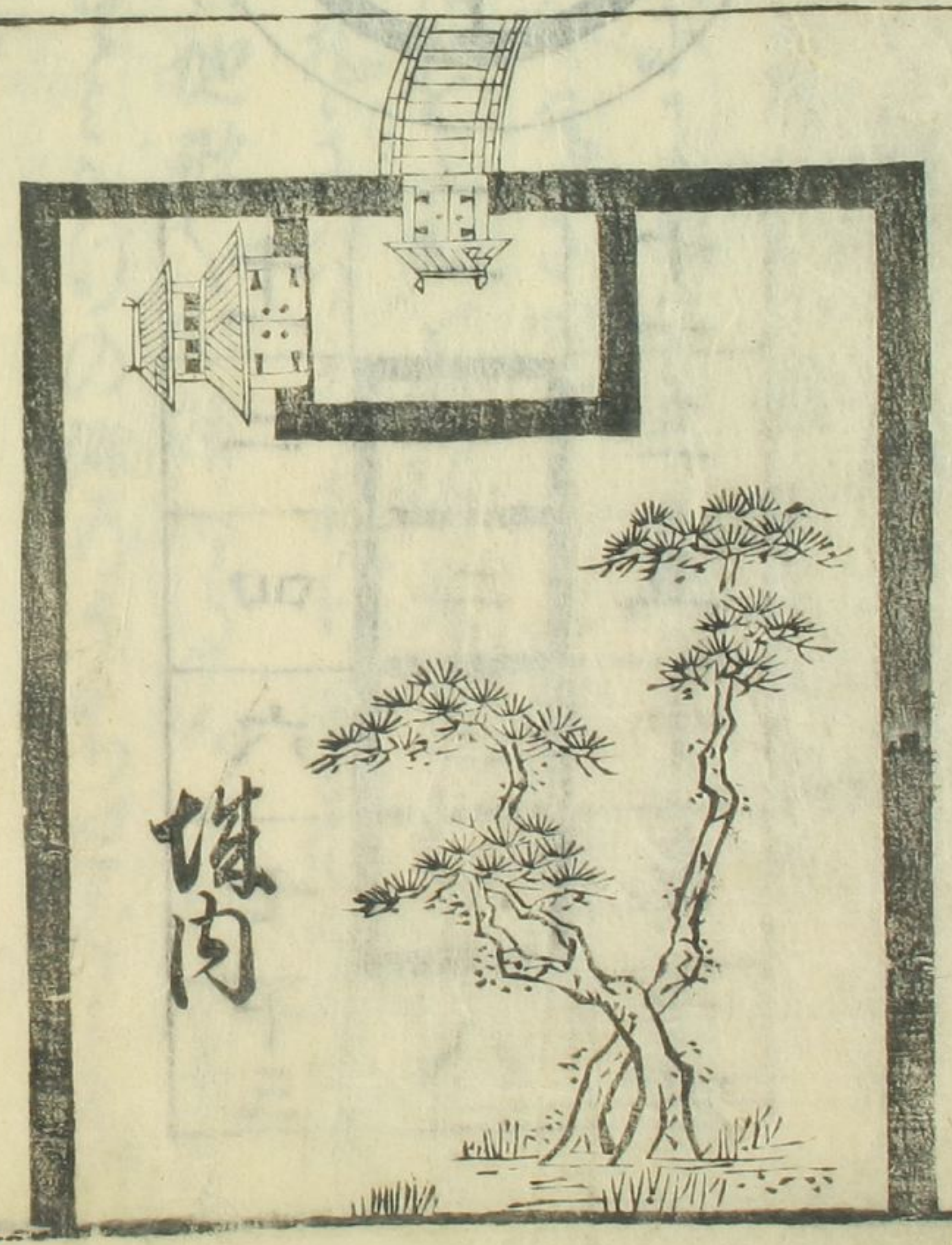
十二	一	十一
三	一	二
五	二	四
十	三	六
九	四	七
十四	八	十三

○七 小口津秋番

換り丸

三

内津秋番



○七 小口津秋番

○八 草津角馬番

或ハ俄ノ書信

りら

和云り教

の不定

以草と

美ナ草津角

る書と云い虎

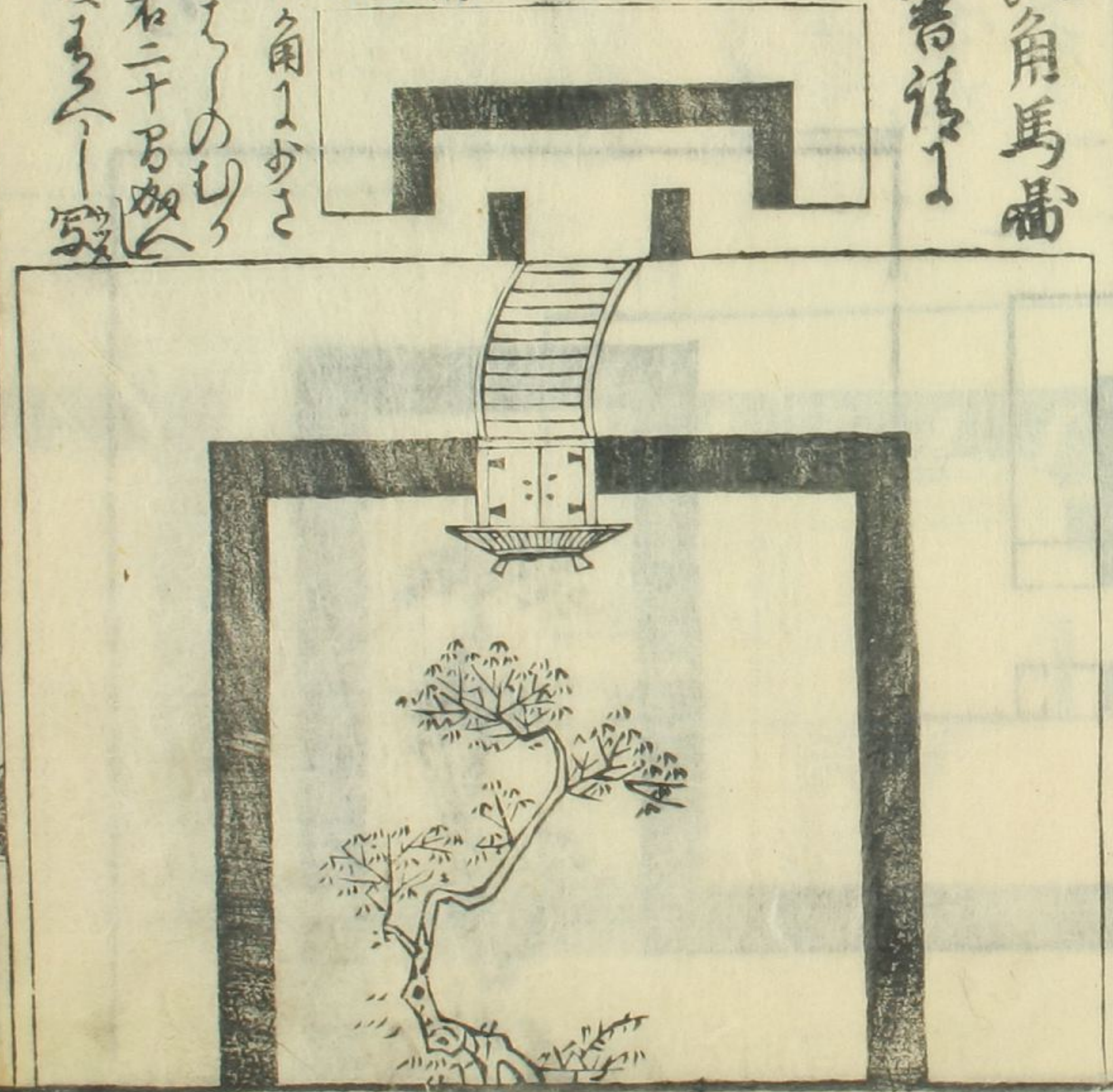
口のひくふは四角一少

くね也る教はるのひく

ひより十右左二十右

ひ外一土居安まふ一

人あやまらる



金部抄書目録二

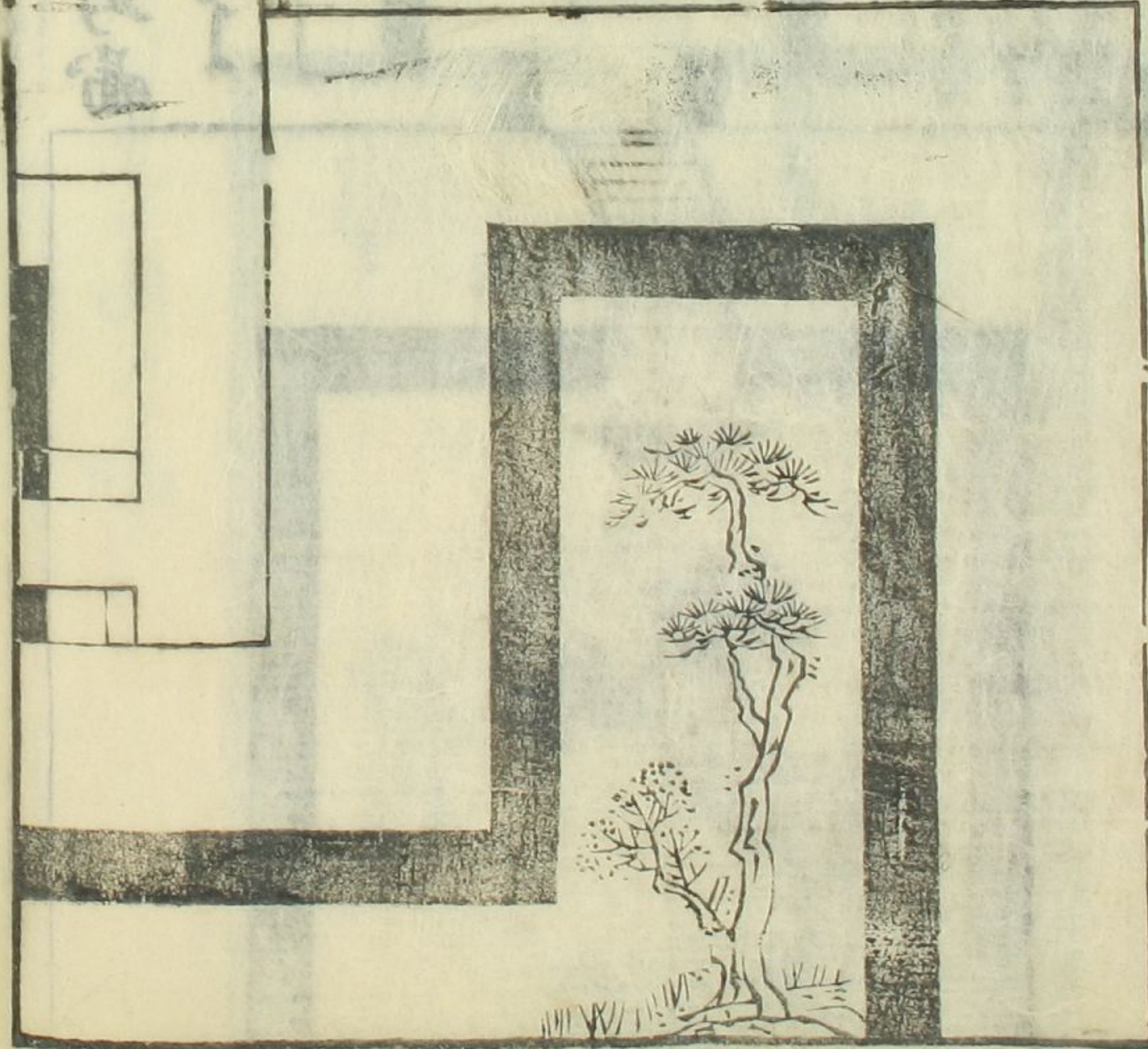
十八

女書乃

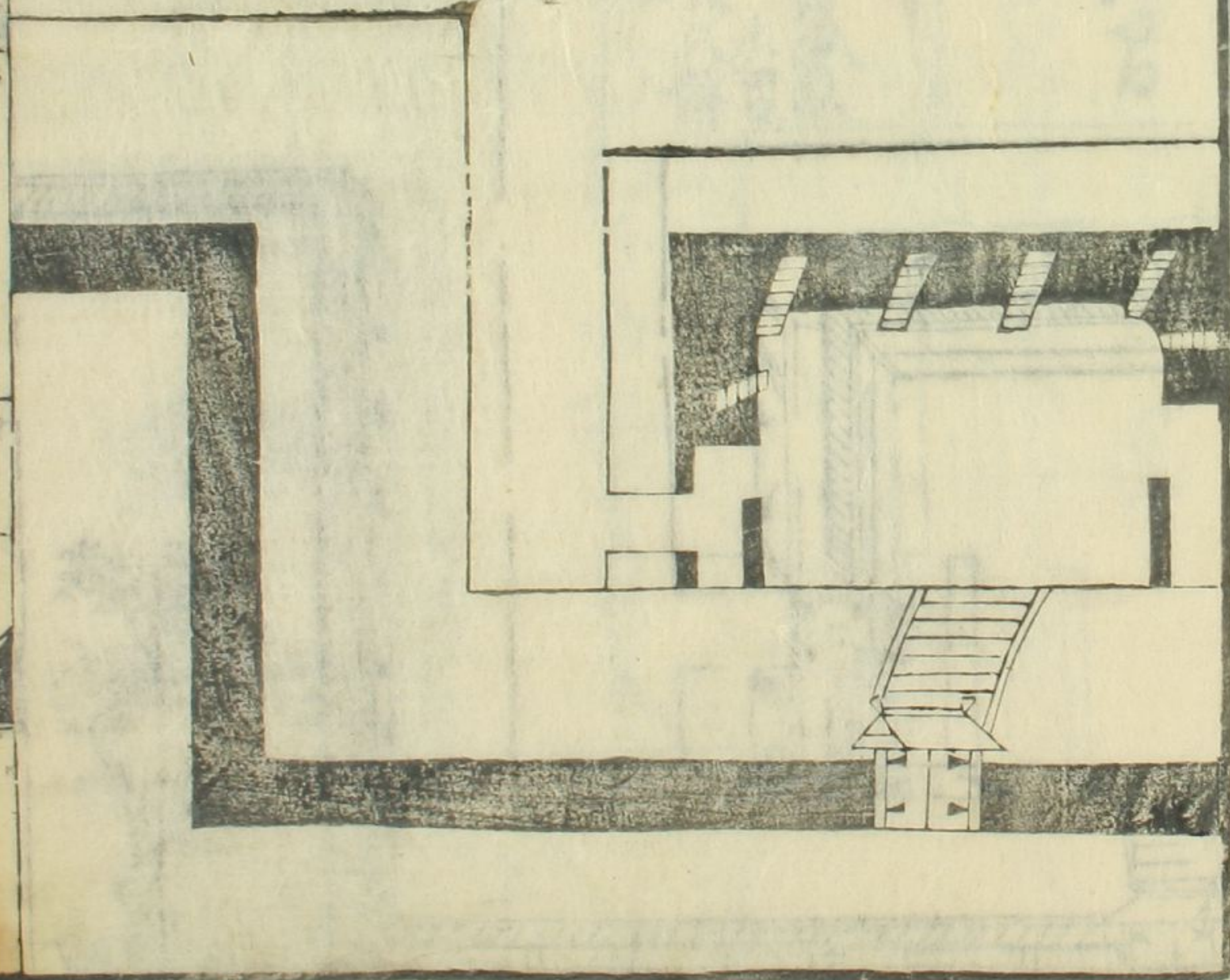
角馬出

圖

海の底の...
八...

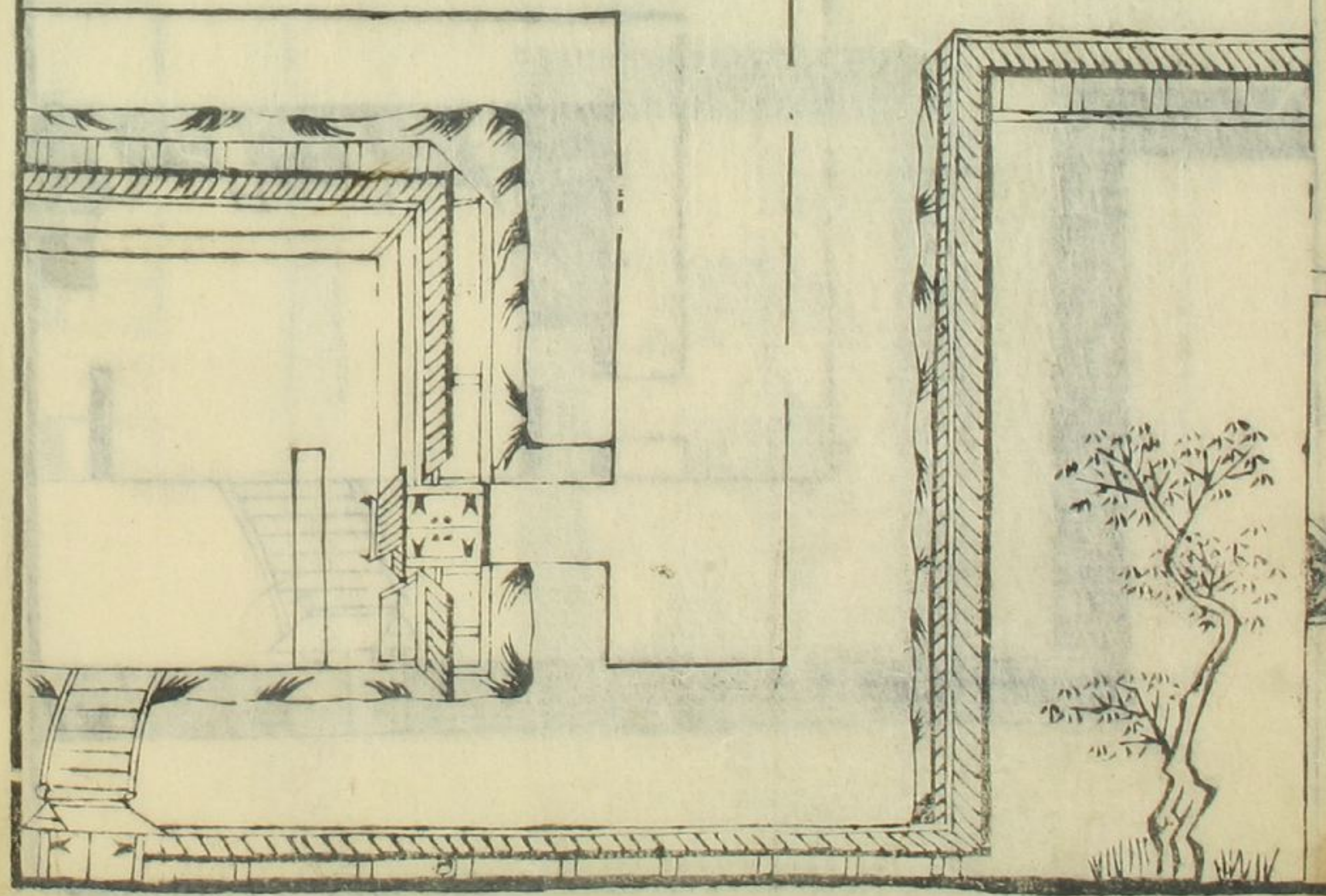


...

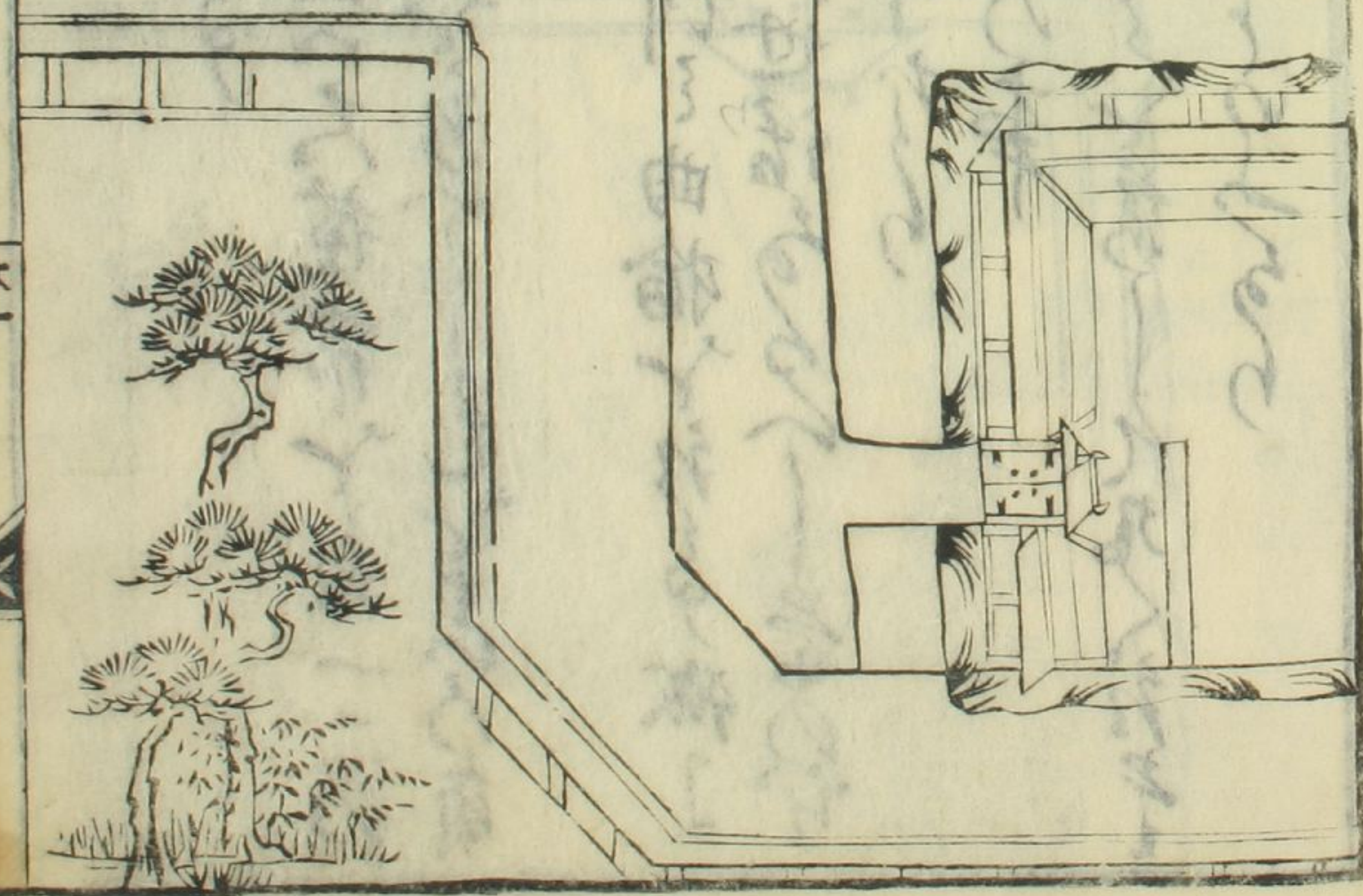


○九丈の角
る出圖

大横郭六十
三間虎口より
横曲輪入り折返
五十五間
地廣さ二十六
馬虫立十
横北



馬お土居丈六
をりそとのり
るお堀十
馬お内お右八
同内の坪敷二百九
同外れ廻九十
但水口脇より
土橋度四
るお土居三
お城の土居三



金部抄書卷二

大

是也

一右左の角もあつた

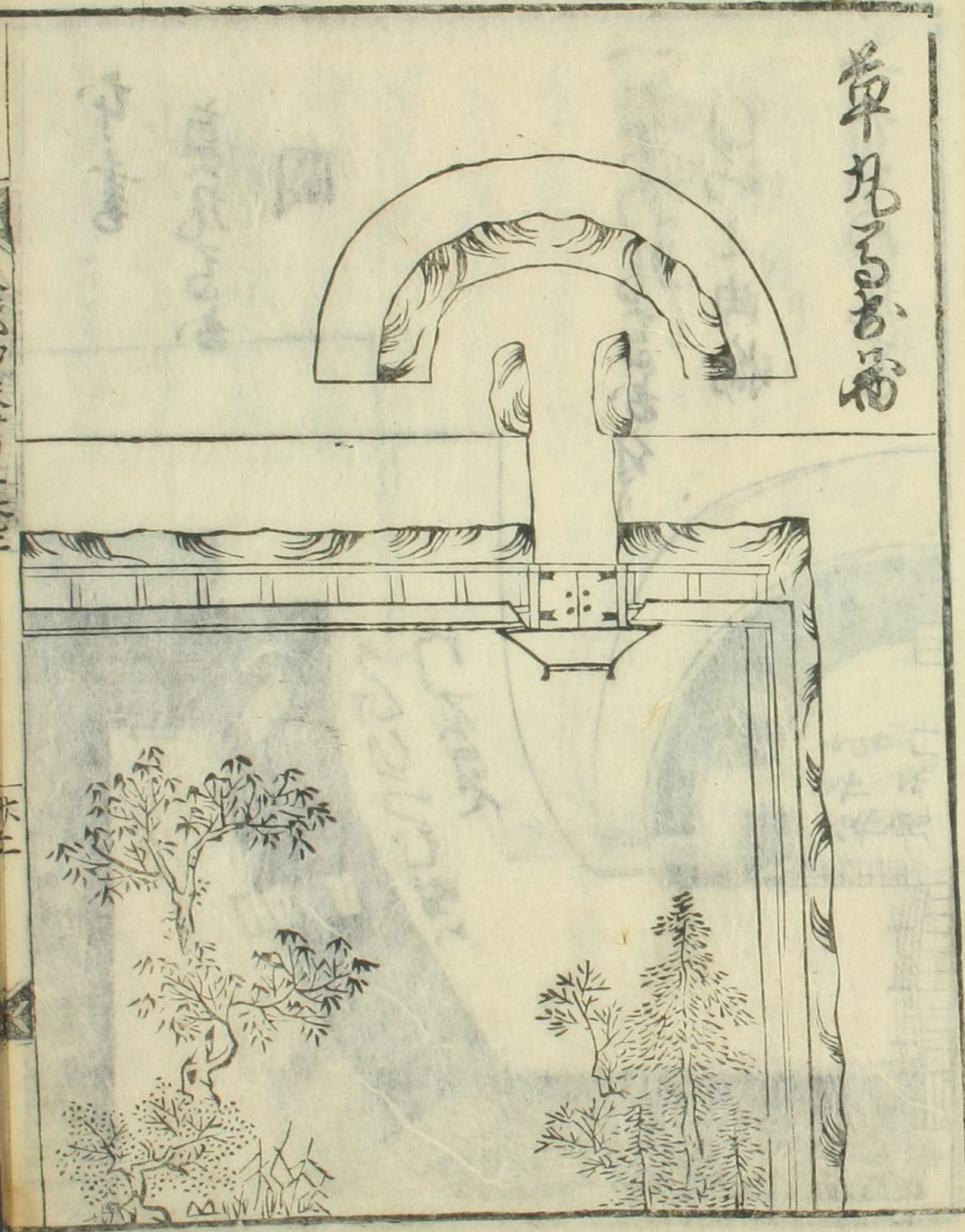
夫乃角もあつたの六横部とあつたの
門と立ひひの曲輪とあつた一色とあつた角
もあつたのあり

和云角もあつたひひの曲輪とあつた
木と竹と継とつた世話のあつた一色
のあつたのあり

○十 草は丸もあつた

草の角もあつたのあつた丸もあつた
ふと草の丸もあつたのあり

草丸もあつた



本書

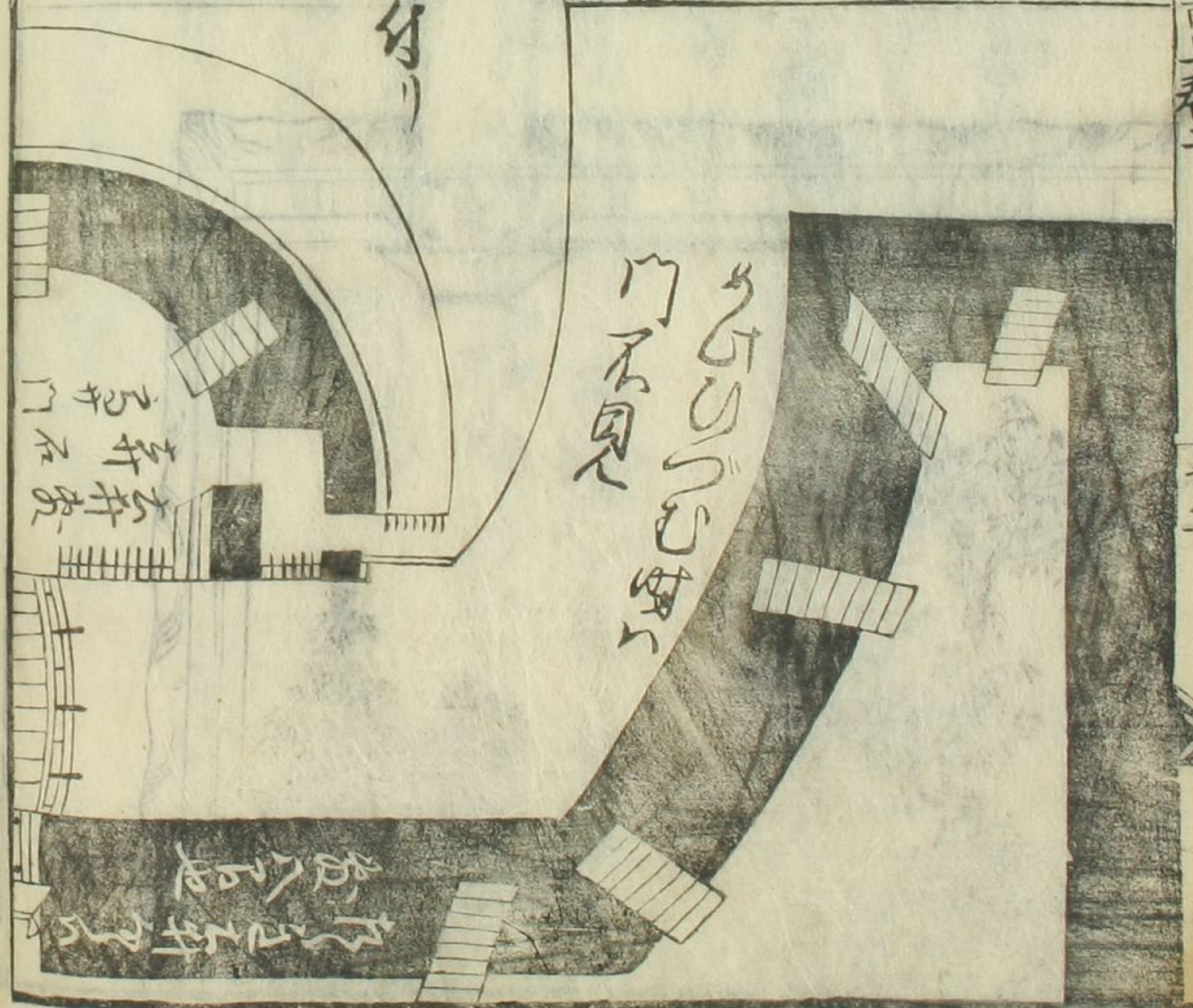
真見る也

圖

一真乃乃る也

ひつゝ曲輪

二真乃乃る也



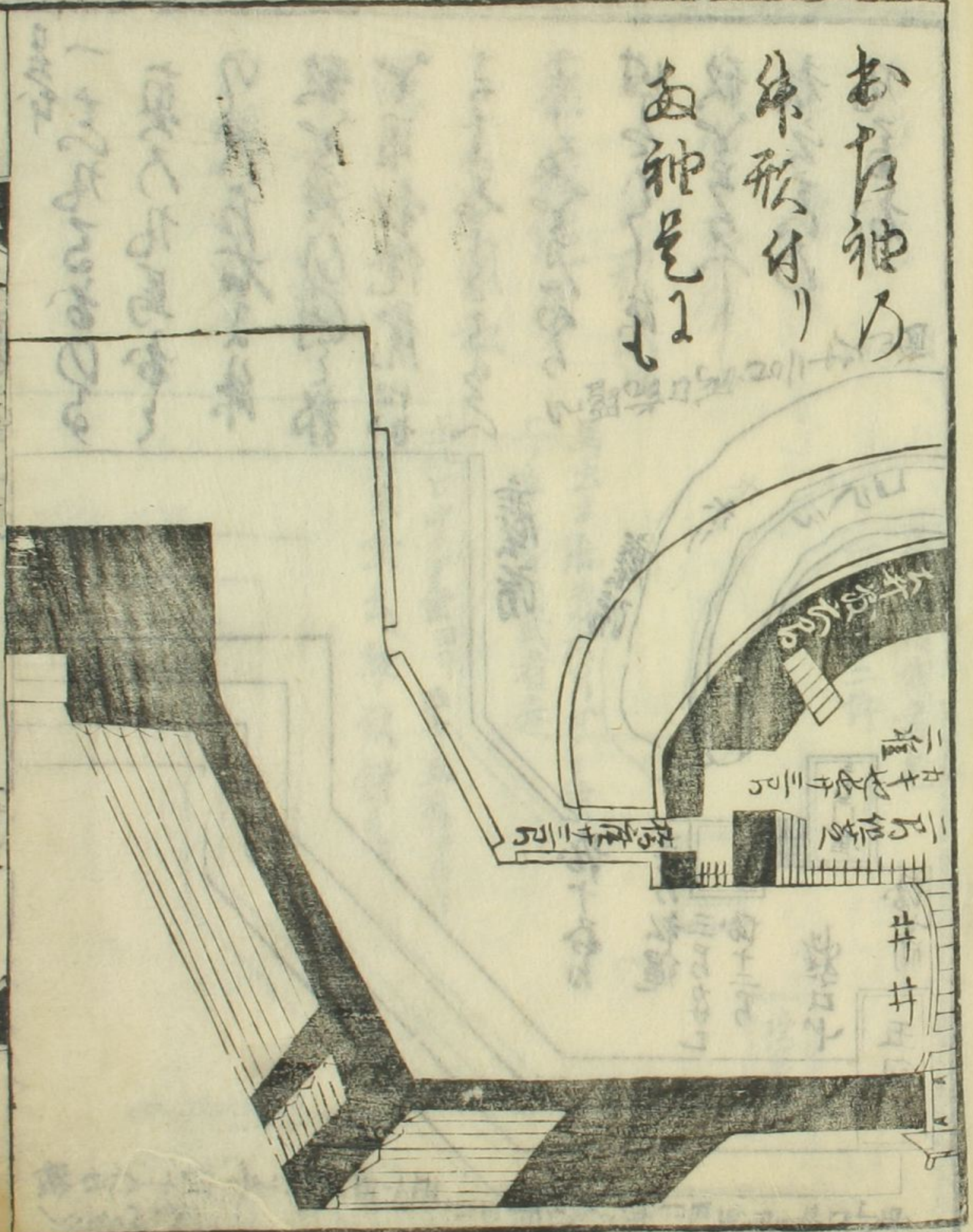
不見

本軒
新
門

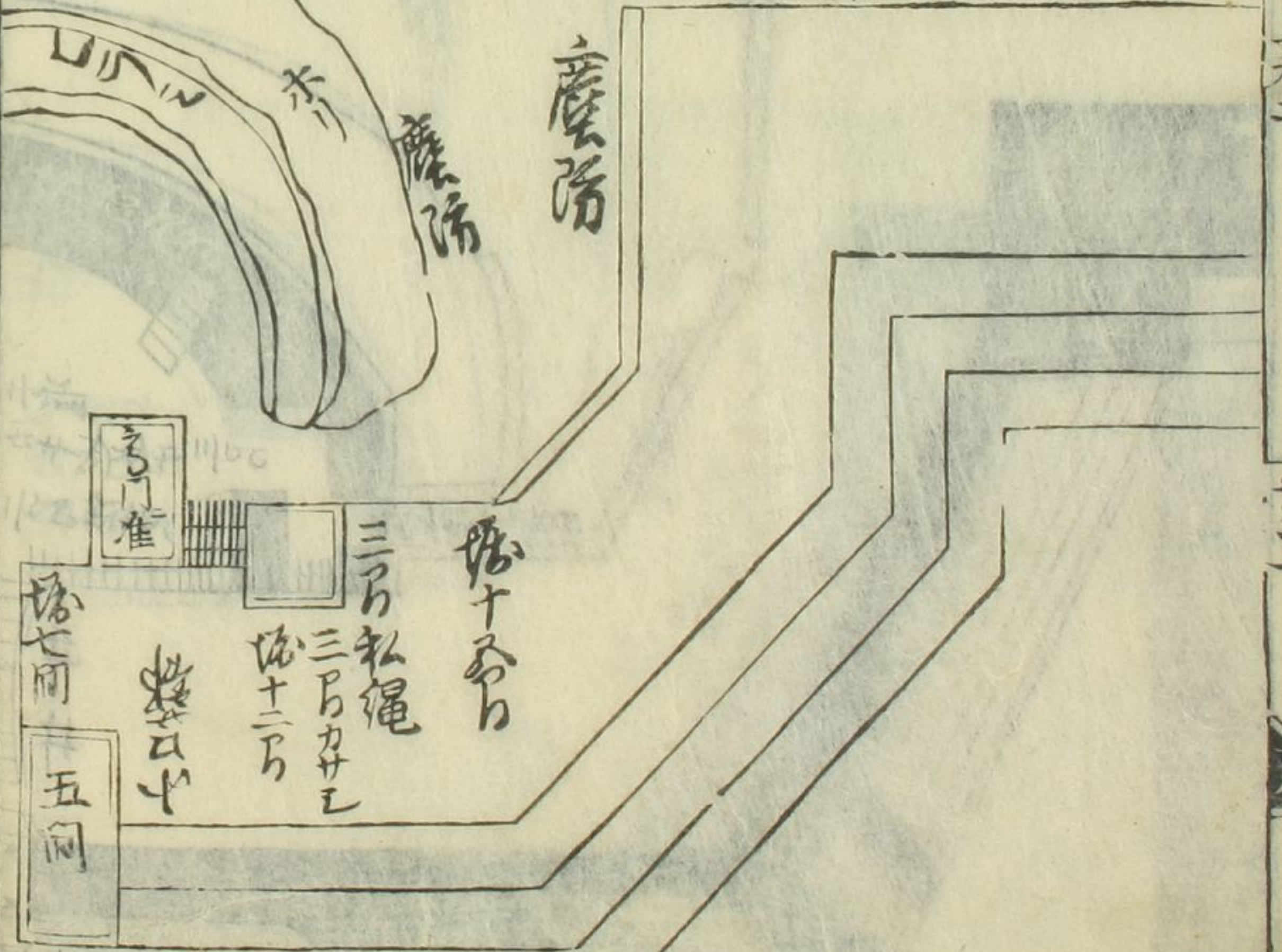
本軒
門

井
井

おた神乃
縁形付
お神是也

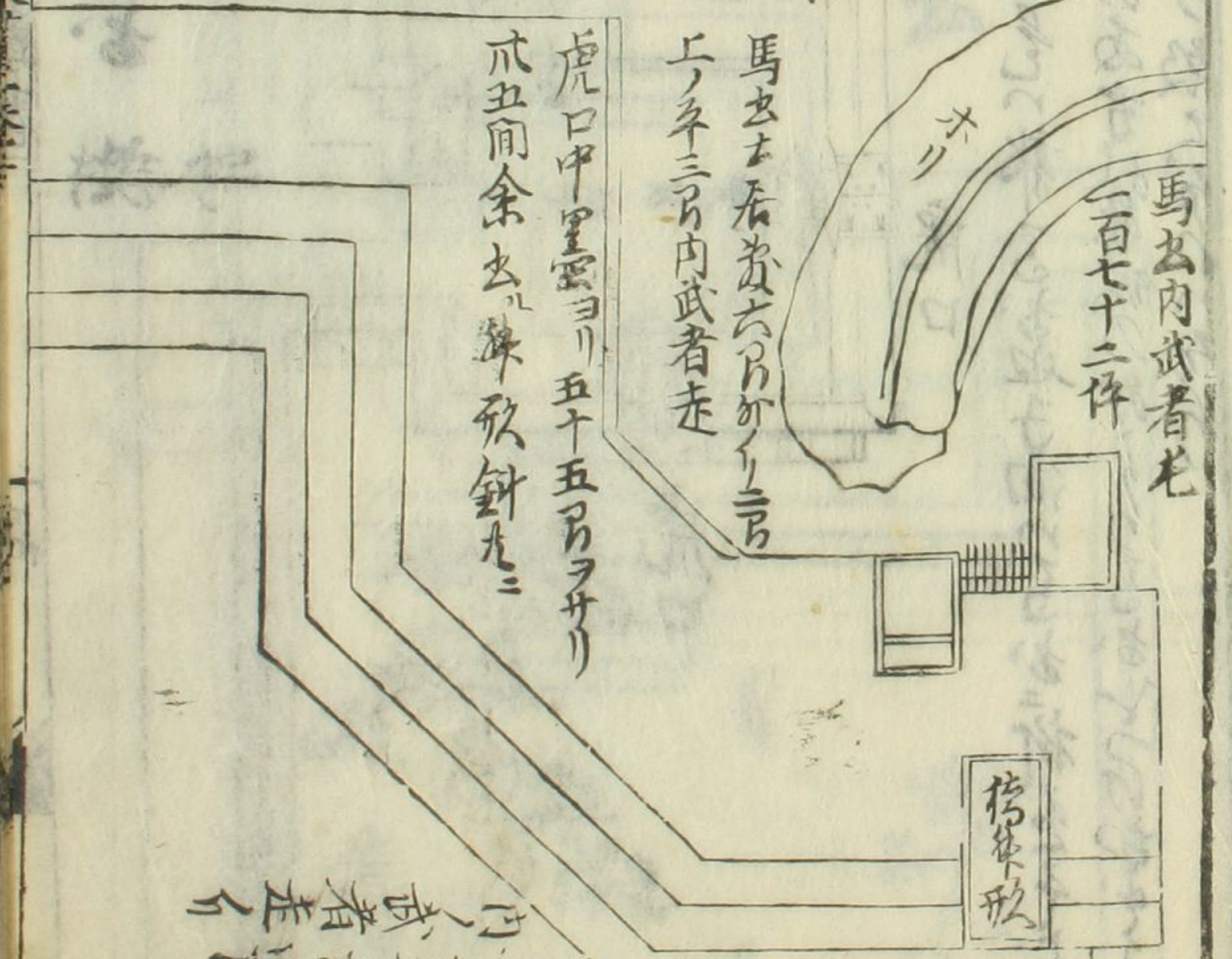


日中
 一と九なるおのり
 真乃九馬おと
 のいお右と係
 取とぬひひと郭
 と用ね縄虎お
 うしととととと
 一とととととと
 時ととととと
 取ととととと
 松ととととと
 見ると



虎口申里雲ヨリ五十五間ヲサリ
 五十五間目一内十八名御
 兼取

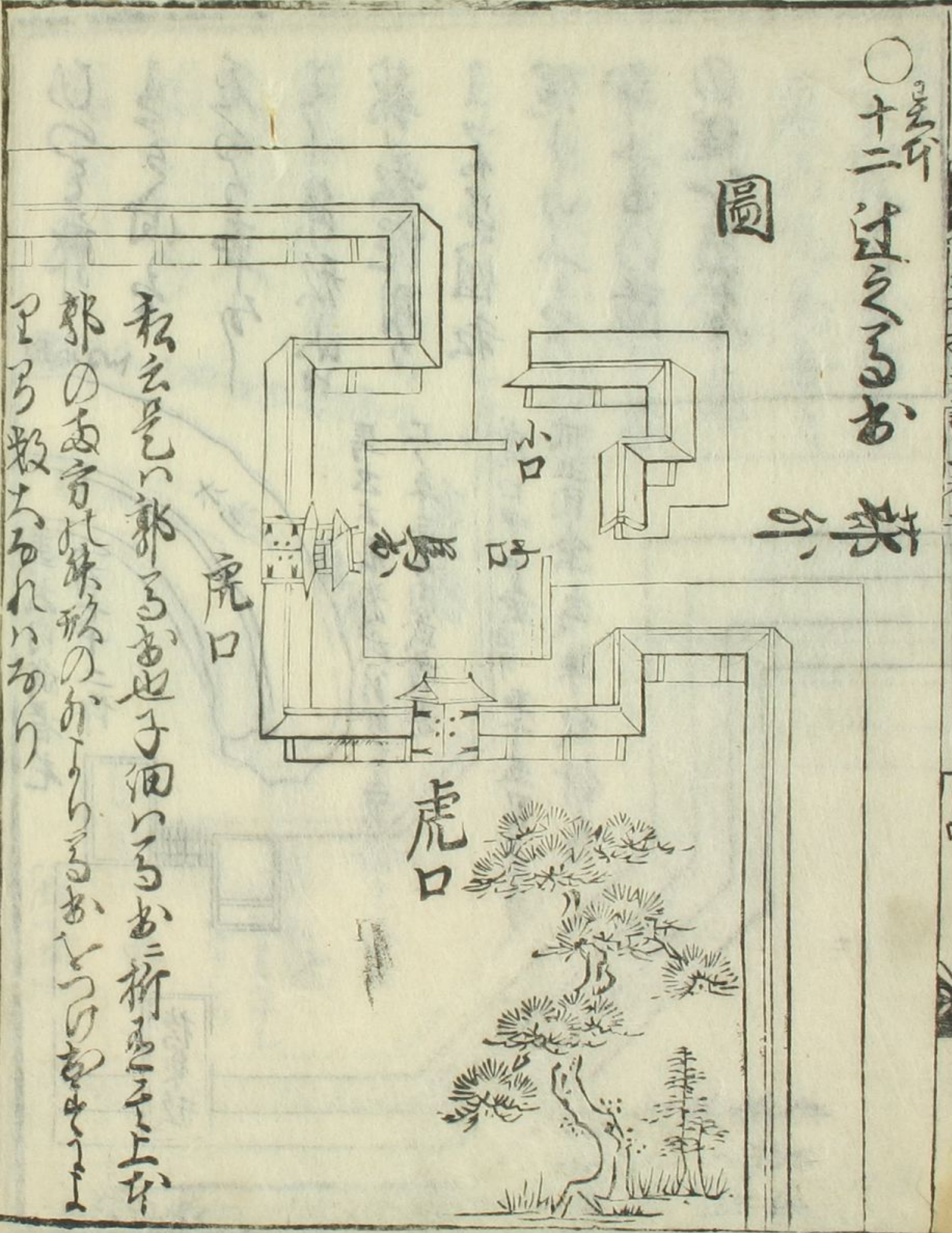
ひつと郭
 ときと河を
 たるり事あり
 ちと係取ぬは
 藤松縄用り
 一と右足組取
 備とつとと
 中書の障
 の縄と改名



馬出内武者老
 一百七十二件
 馬出と看者六つりかへり
 上ノ年三つ内武者走
 虎口申里雲ヨリ五十五間ヲサリ
 内五間余と藤松針九
 内武者走り
 上ノ年三つ内
 五十五間目一内十八名御
 兼取

○^二十二^一 〆^二過^一る^二お^一 〆^二折^一

圖



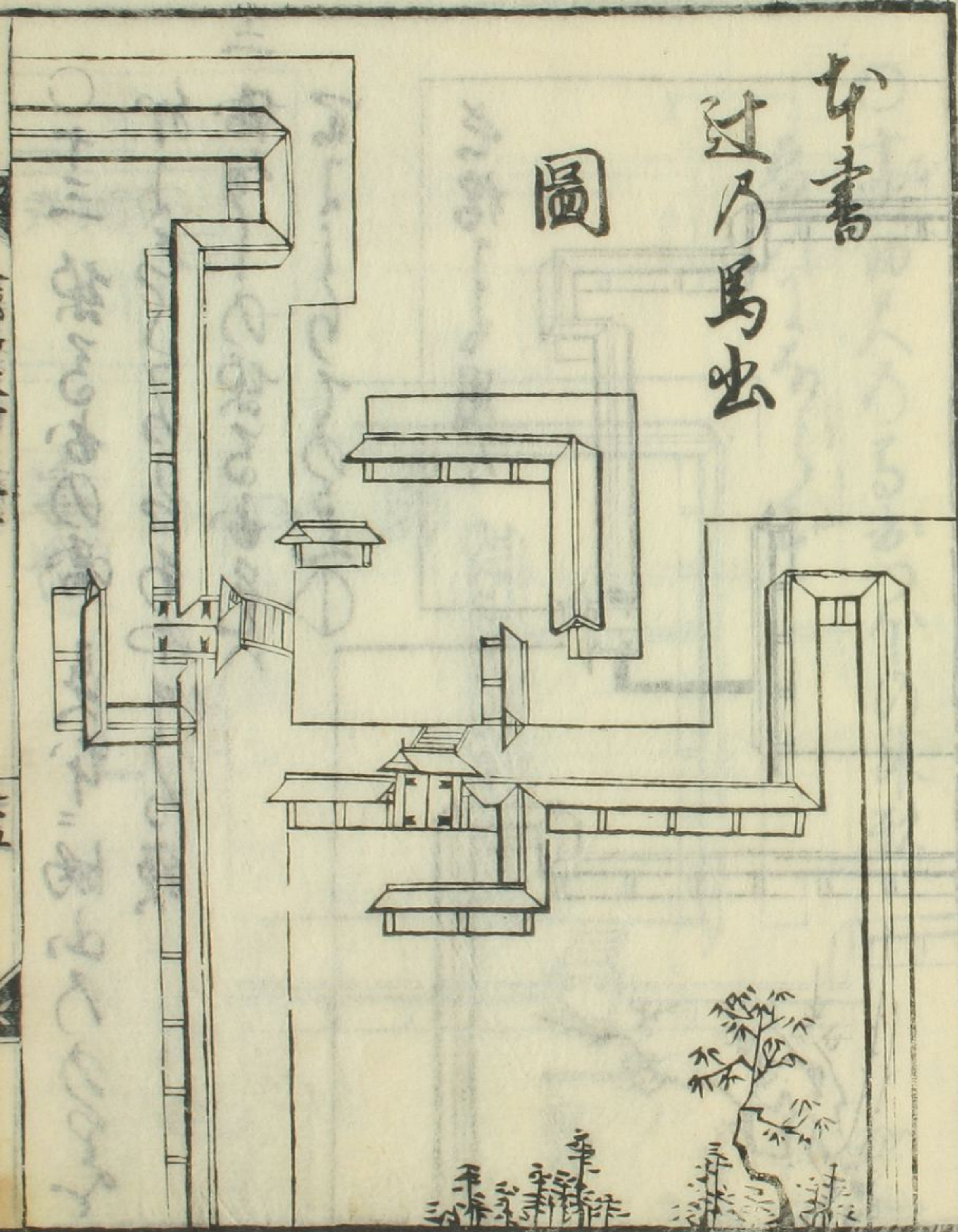
私云是の郭もあや子細なるお折るをよか
郭の両方柱棟敷のかしらりるおとつのおせし
里り敷大られあり

虎口

虎口

お書
〆^二過^一る^二馬^一出

圖

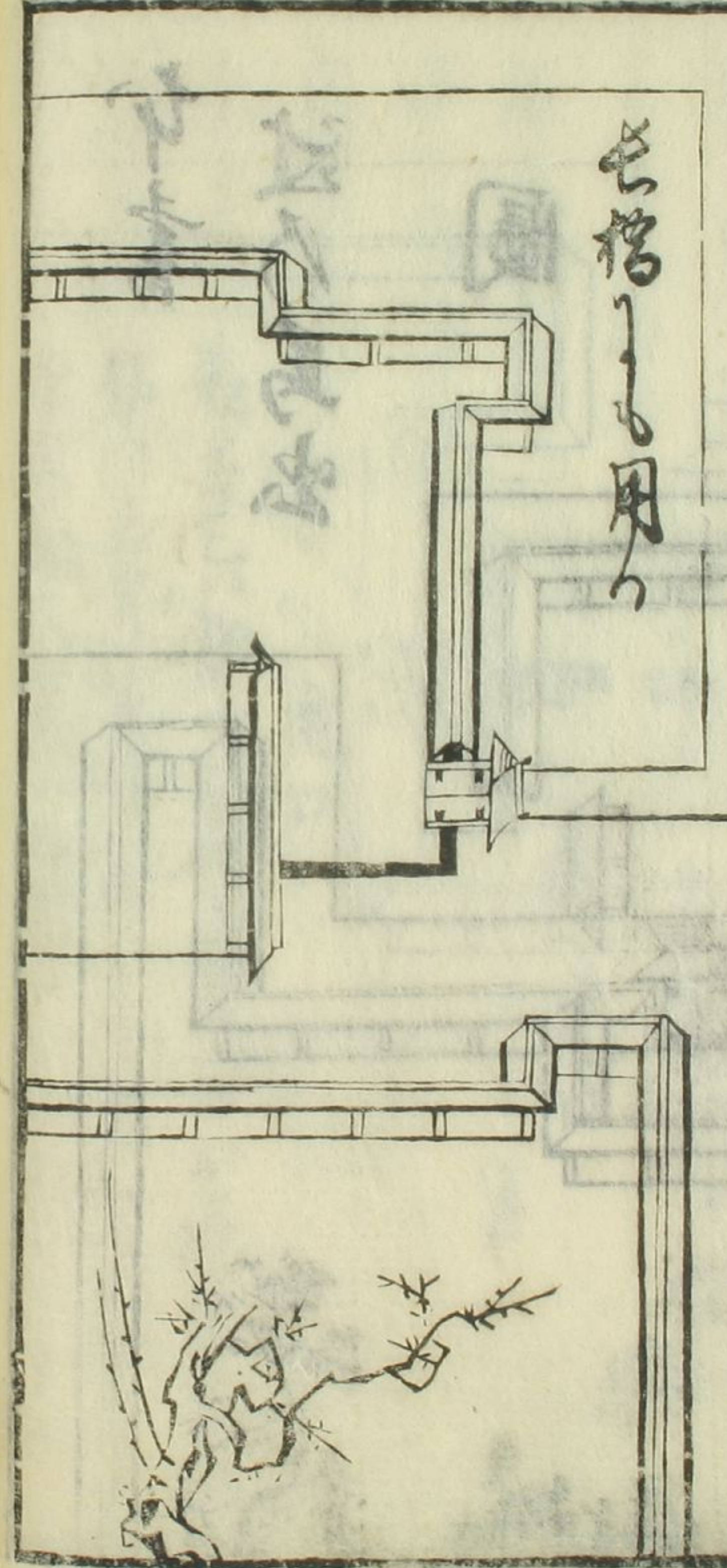


全書

十五

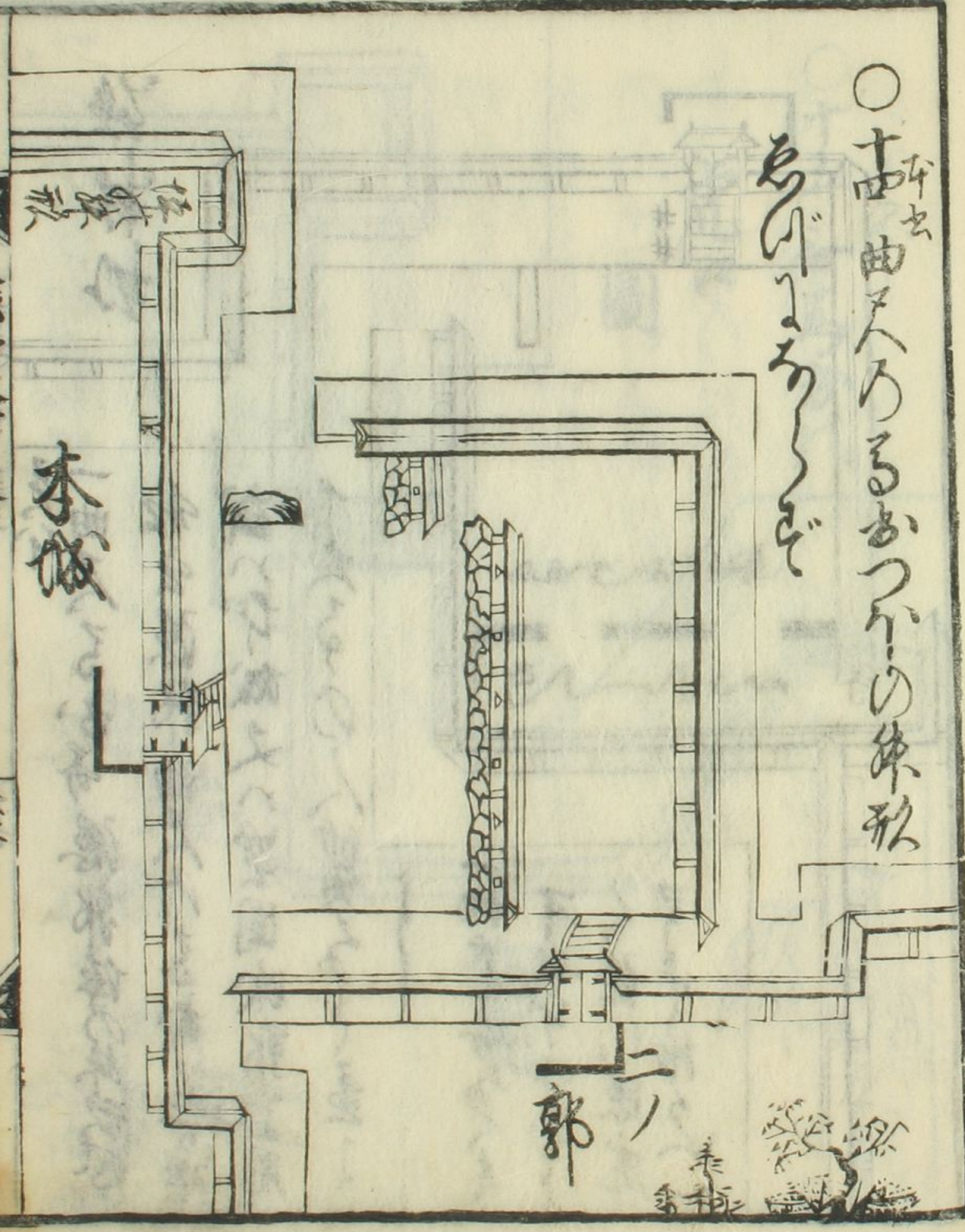
○十三築るおの番 是廿二納山りのりよ
 外一ちくくわあわやうり強
 二階ありの築るおそ
 一宮一らてのえ

名指しも用り

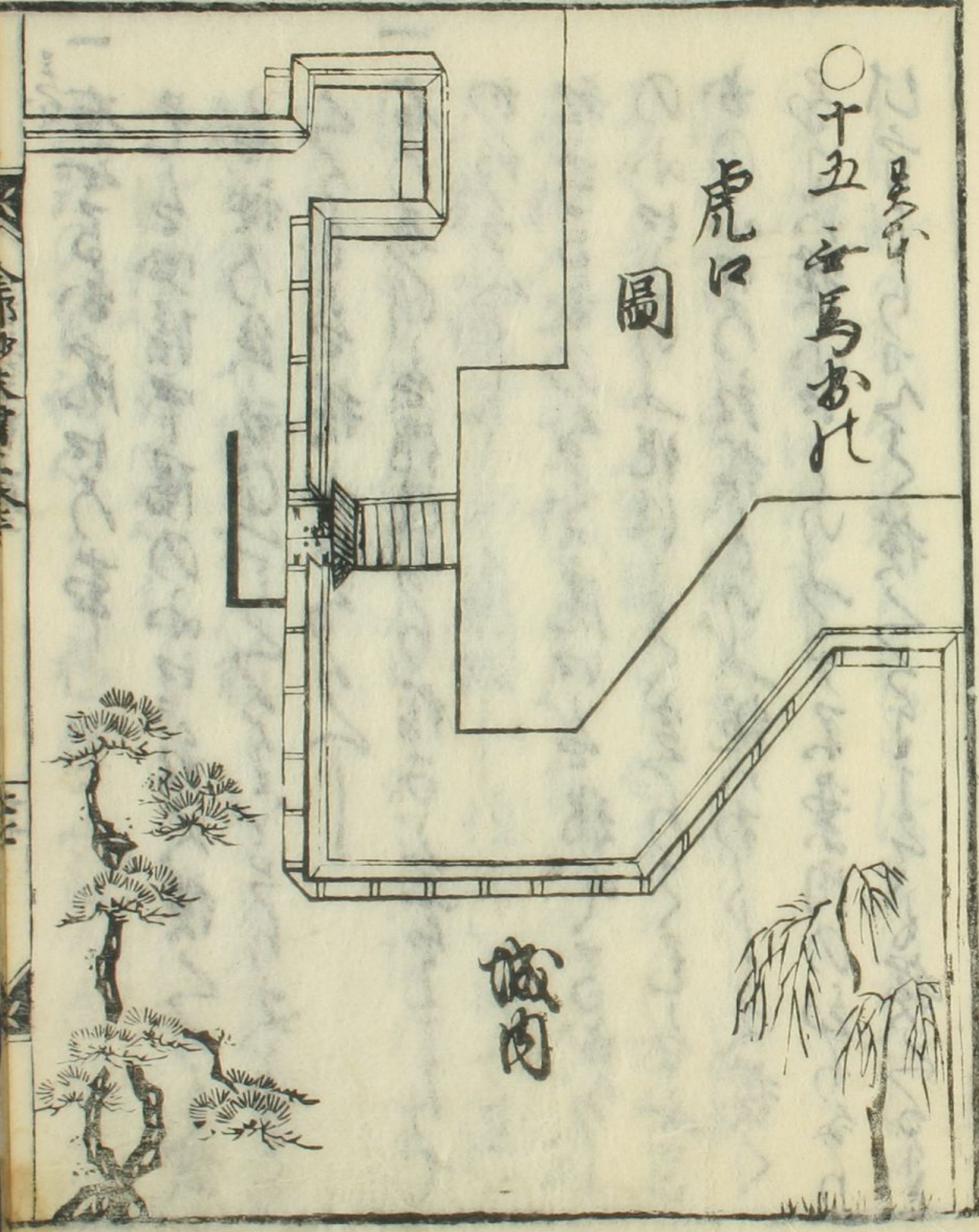


○^本曲^虫入りるおつがの築形
 ちびくちく

二ノ
 郭
 春
 香

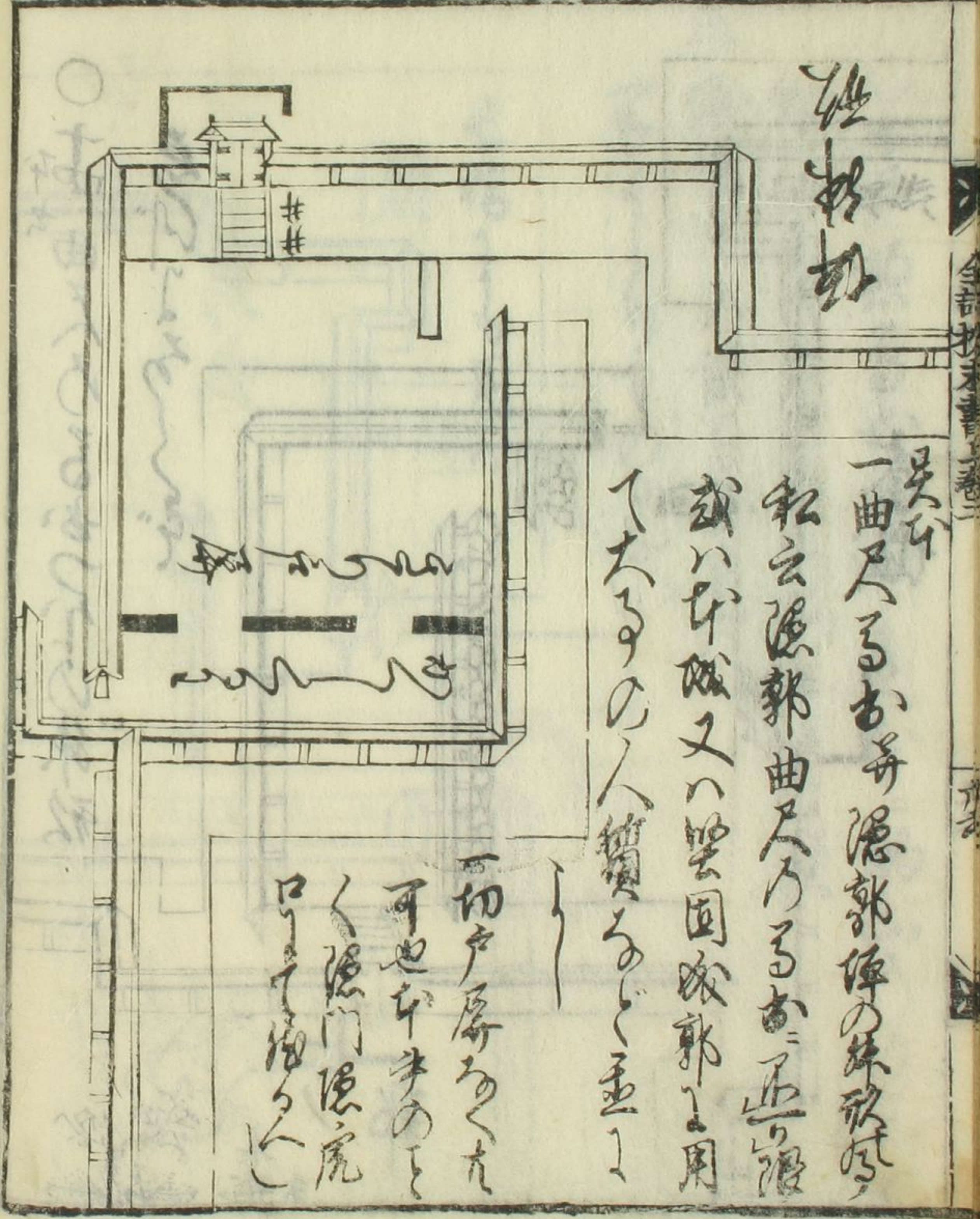


本城



○十五
虎口
圖

城内



池部

一曲尺なるお并池部坪の縁取等
 松之邊郭曲尺のりるお並池
 或いは又の築園池郭に用
 いたるのりるお並池

一切戸屏るる九
 可也中半のり
 口と池のり

一 右なるも虎口の事

是と必陰中陽の口は、大横くつるを成
と神乃練秋ひつごくつるをとり又しこ
くつるを横おはるる

一 右乃虎口の作はあり、指子のを、
わりの

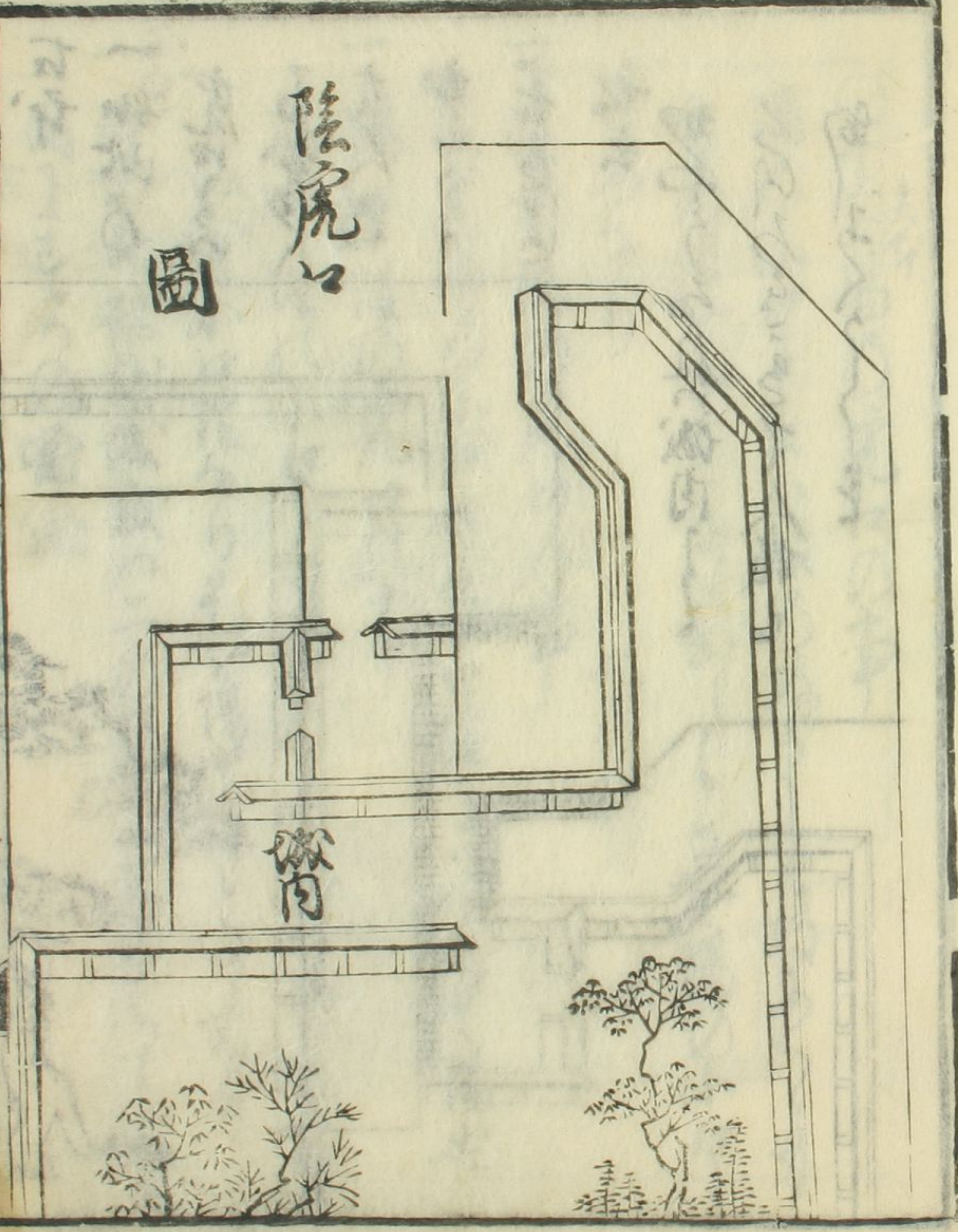
私云る也のち、虎口の部、
の小口といふ作は、
かの小口乃、
あり、
い言ふらり、

しり、
○十六、
陰の小口と云ふ、
みくき、
と押入、
人、
む、
用ら

私云、
て、
城、

城、

ぶよとせりあつちあつちと頼りて人教を
 まよひ申すつと申すまよひ申す何ぞ
 家よと後のふいのまよひ申すんや後のふ
 といつちあつちの地政或と繩しりりる不
 及しつとむむるつたあつち虎はあつち
 口びしつとあつちあつちあつち流石繩の
 繩しつと一向し人教あつちあつちあつち
 わつちあつちあつちあつちあつちあつち
 不及つちあつちあつちあつちあつちあつち
 しく教の政あつちあつちあつちあつちあつち
 出つちあつちあつちあつちあつちあつち



陸虎の

圖

陸虎の圖

六九

古井

一如此乃

虎口より

るおろく

九人殺

おろく

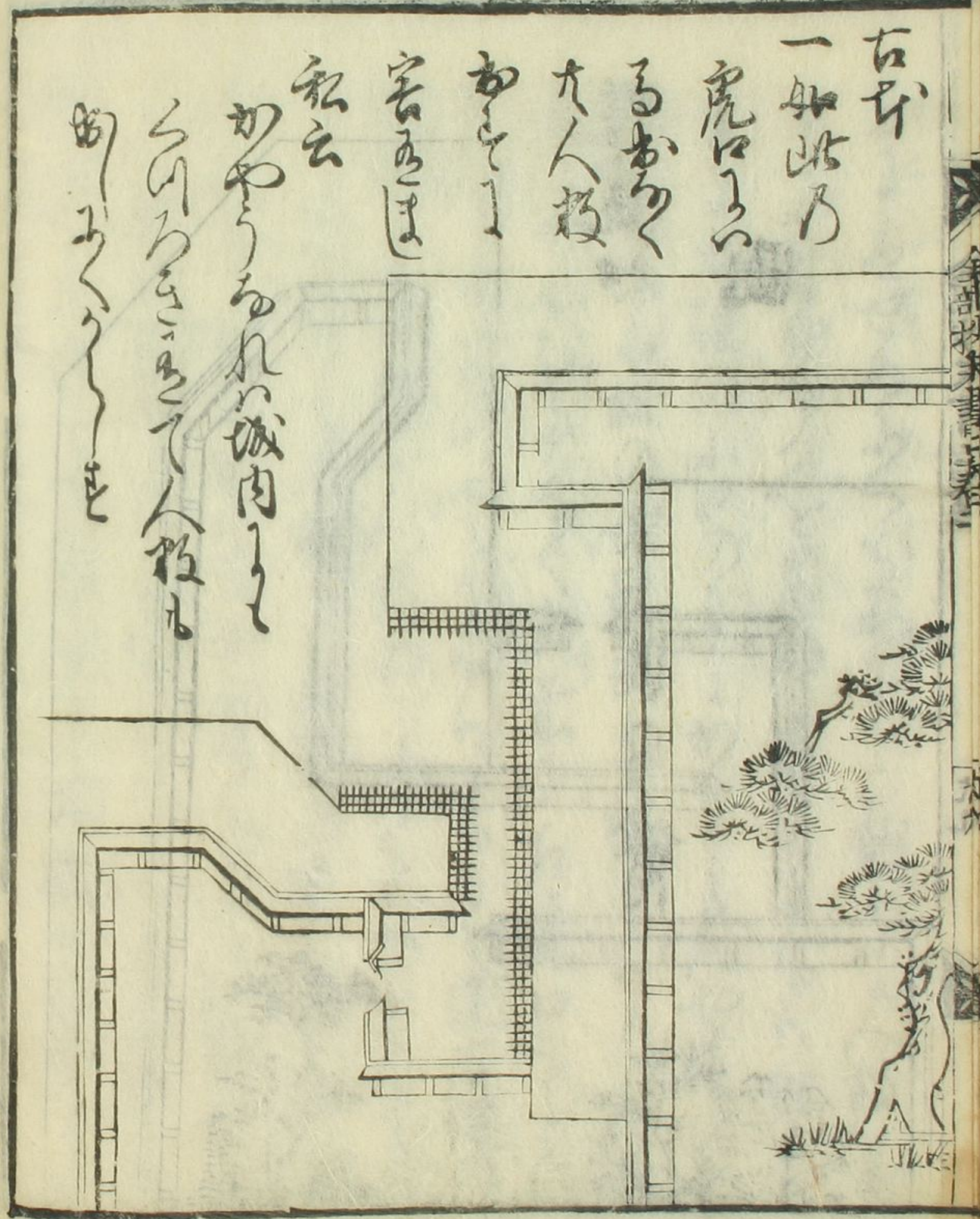
客はは

私云

切やうなれ城内より

くひろをこめて人殺も

御おろくくき



○十七陽乃虎口の事

陽乃小口と云ハ敵乃攻るも攻めくも

方の強とおろくも御おろくも陽の小口

いおろく

一陰中陽の虎口の事

陰中陽乃小口と云ハ陰より入るて陽也

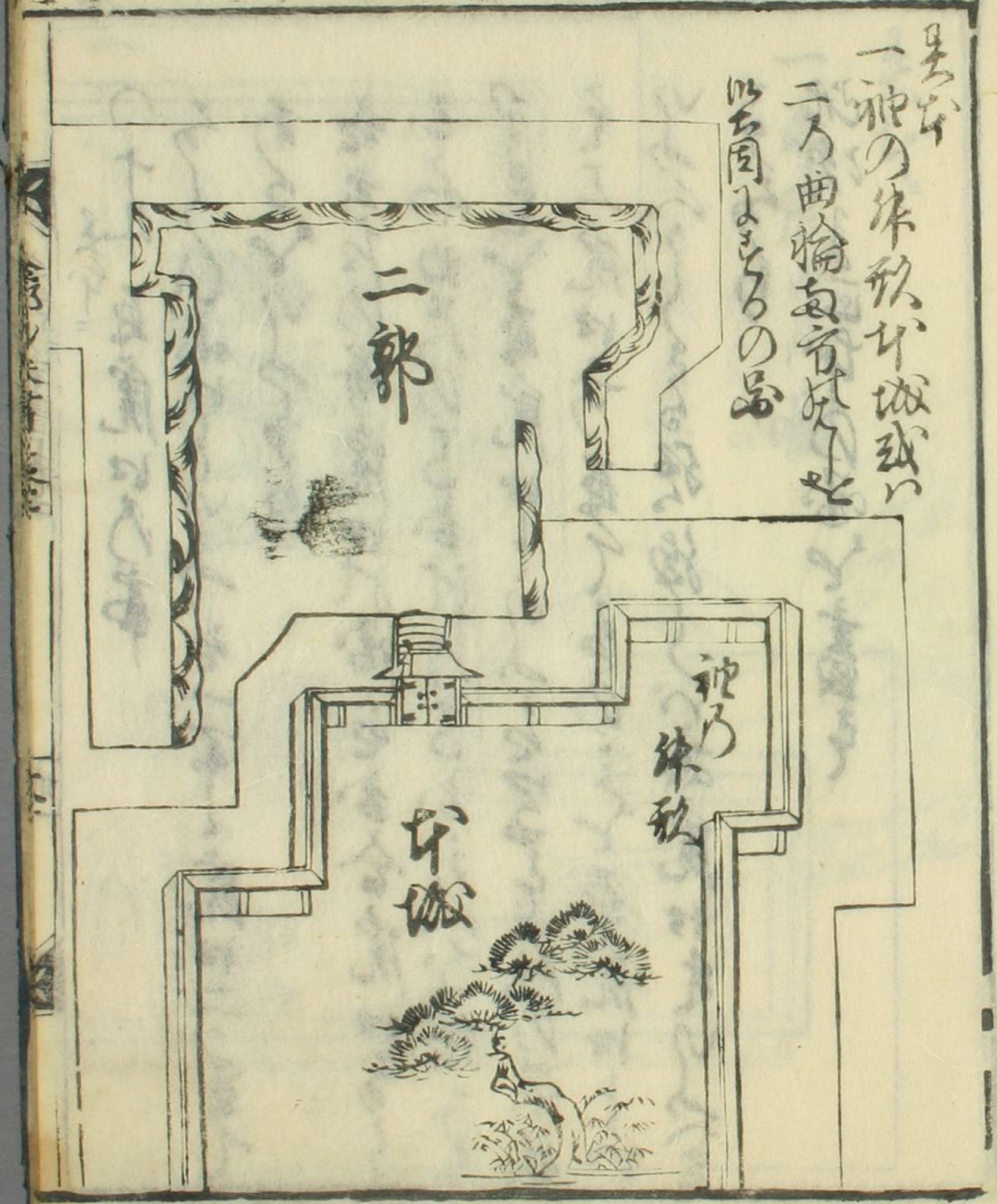
一陽中陰の虎口の事

陽中陰乃小口と云ハ陽より入るて陰也

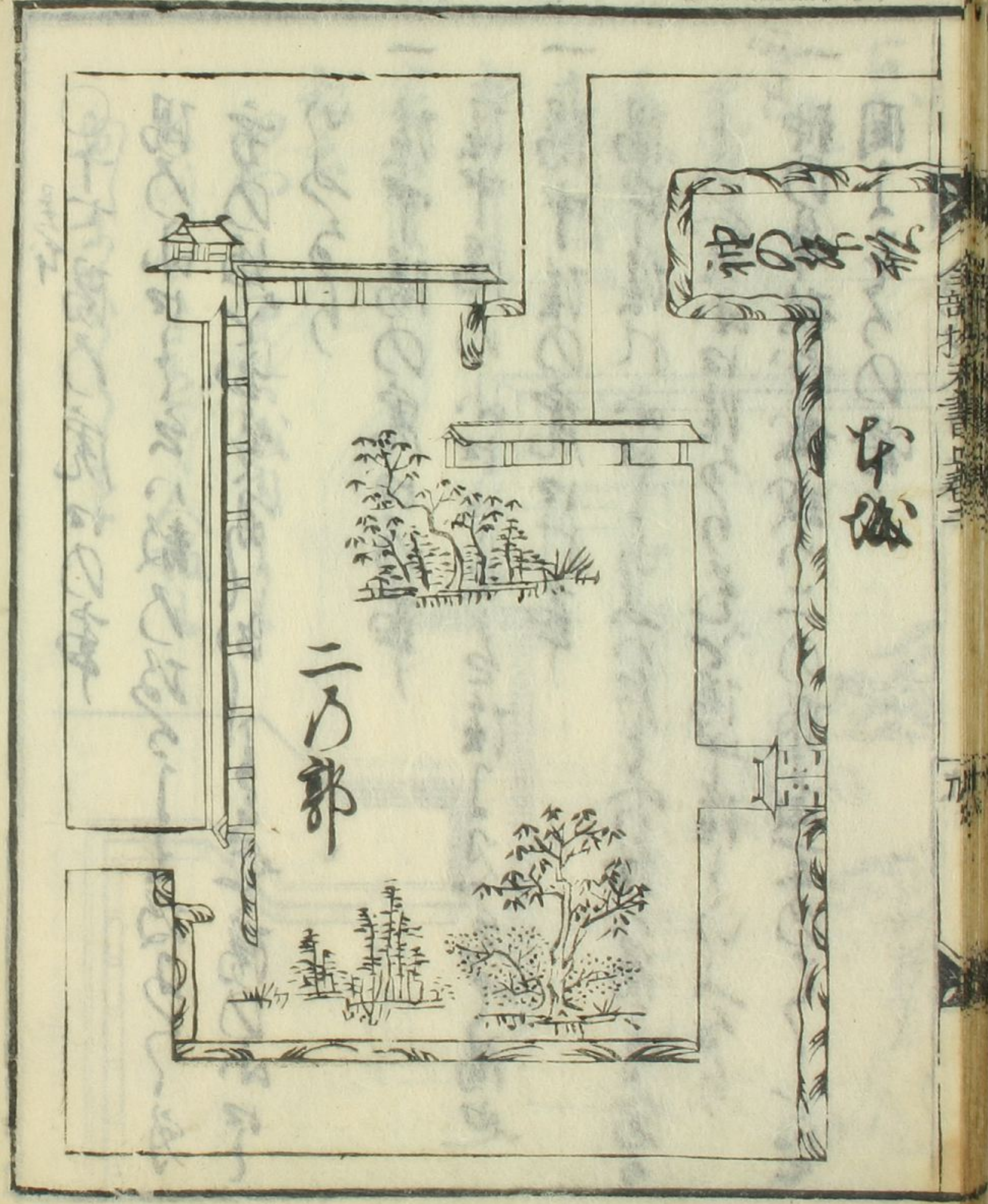
と云ハ小口は陰より是と陽中陰といふなり

一神の形が城或ハ二の郭あるの事と云ハ

圓一と云るの事



是が
 一神の練秋中城或は
 二乃曲輪ありて
 此の園よりなるの品



金部抄末書上巻二

一正中の

五虎口かきうし

三ツも四ツも虎口

わりて寄掛り

縄迄さへく遠州

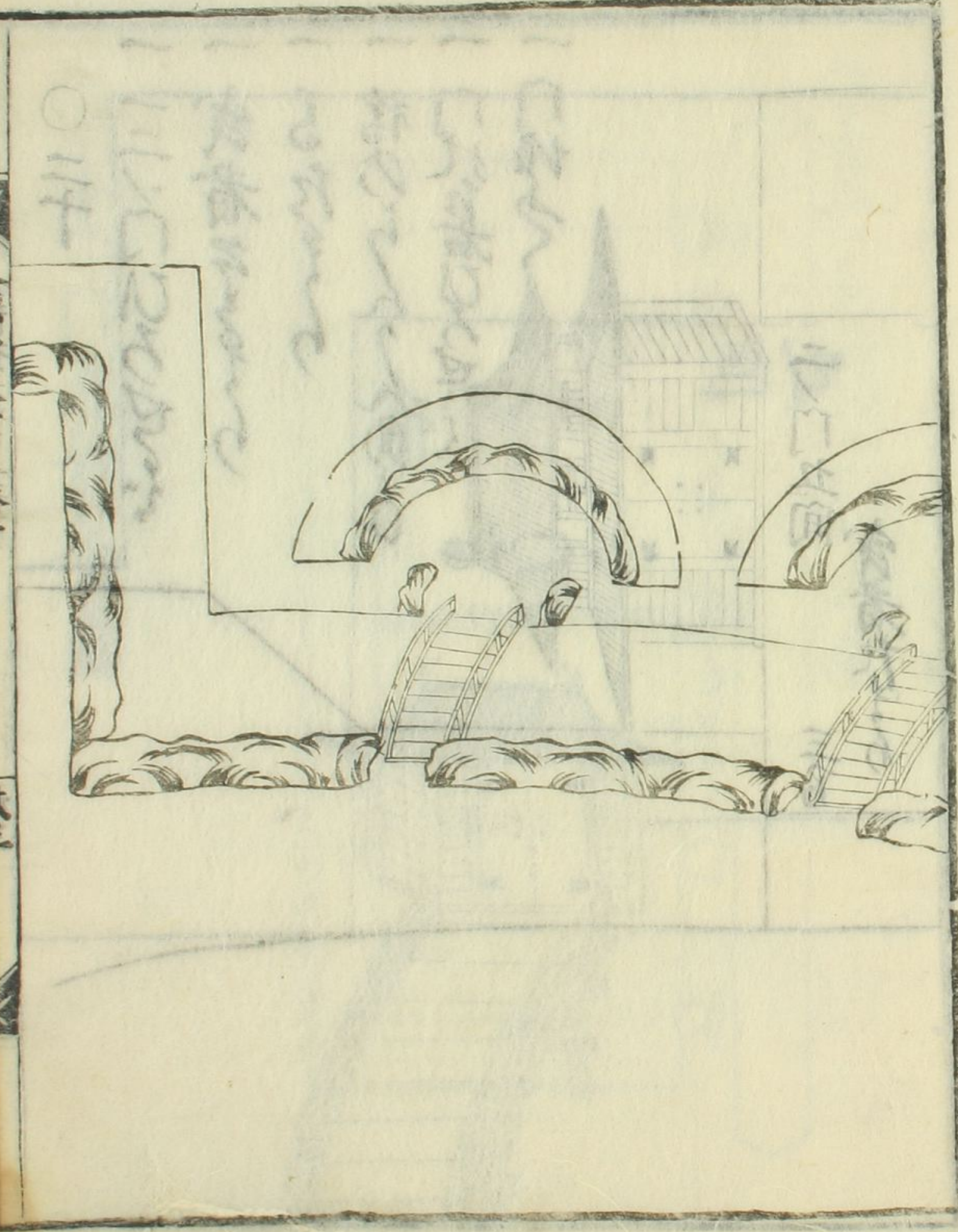
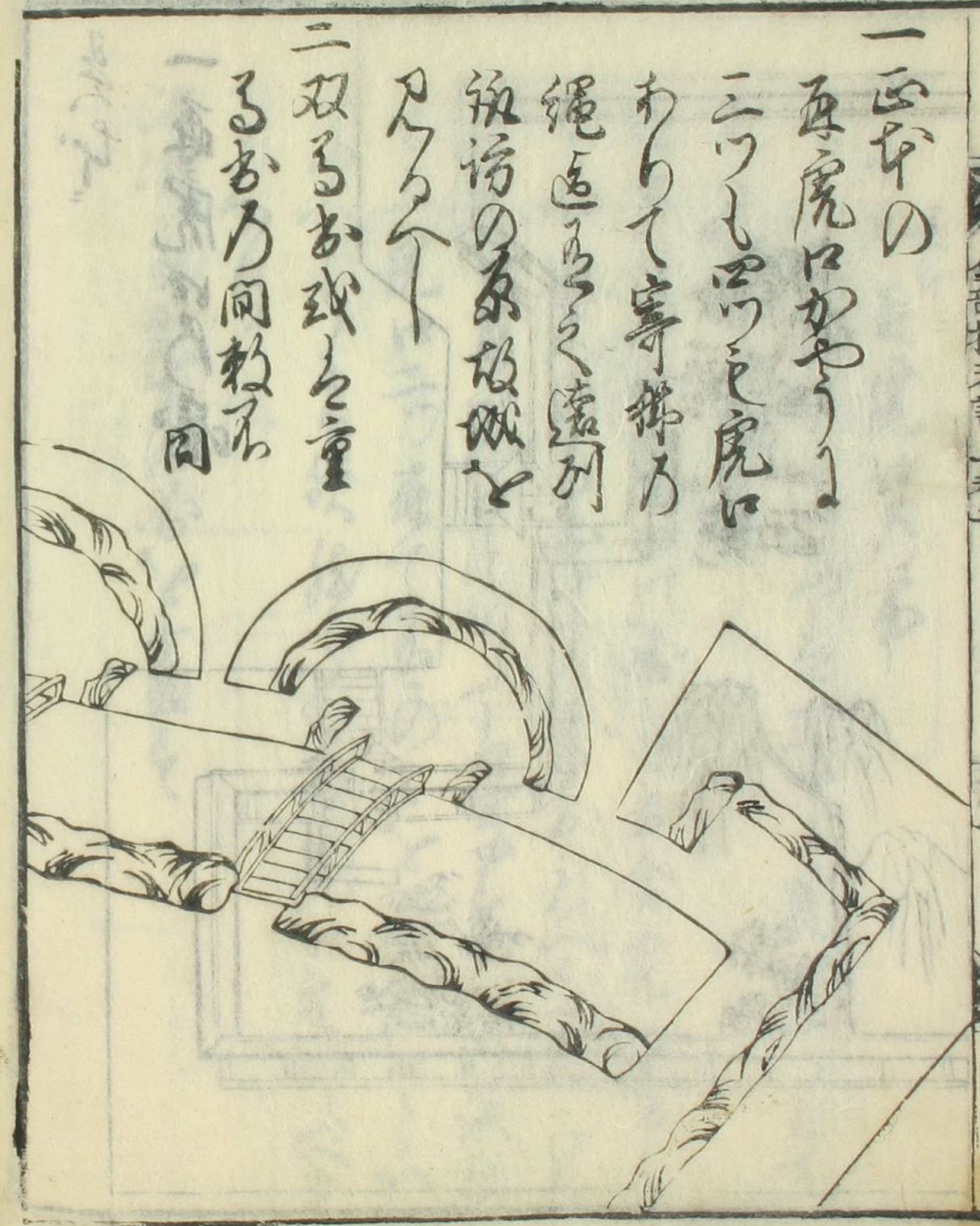
旗指の系故城と

んんん

二双もお城と重

るおり同敷る

同



○二十

一三ノ門ひろせむら

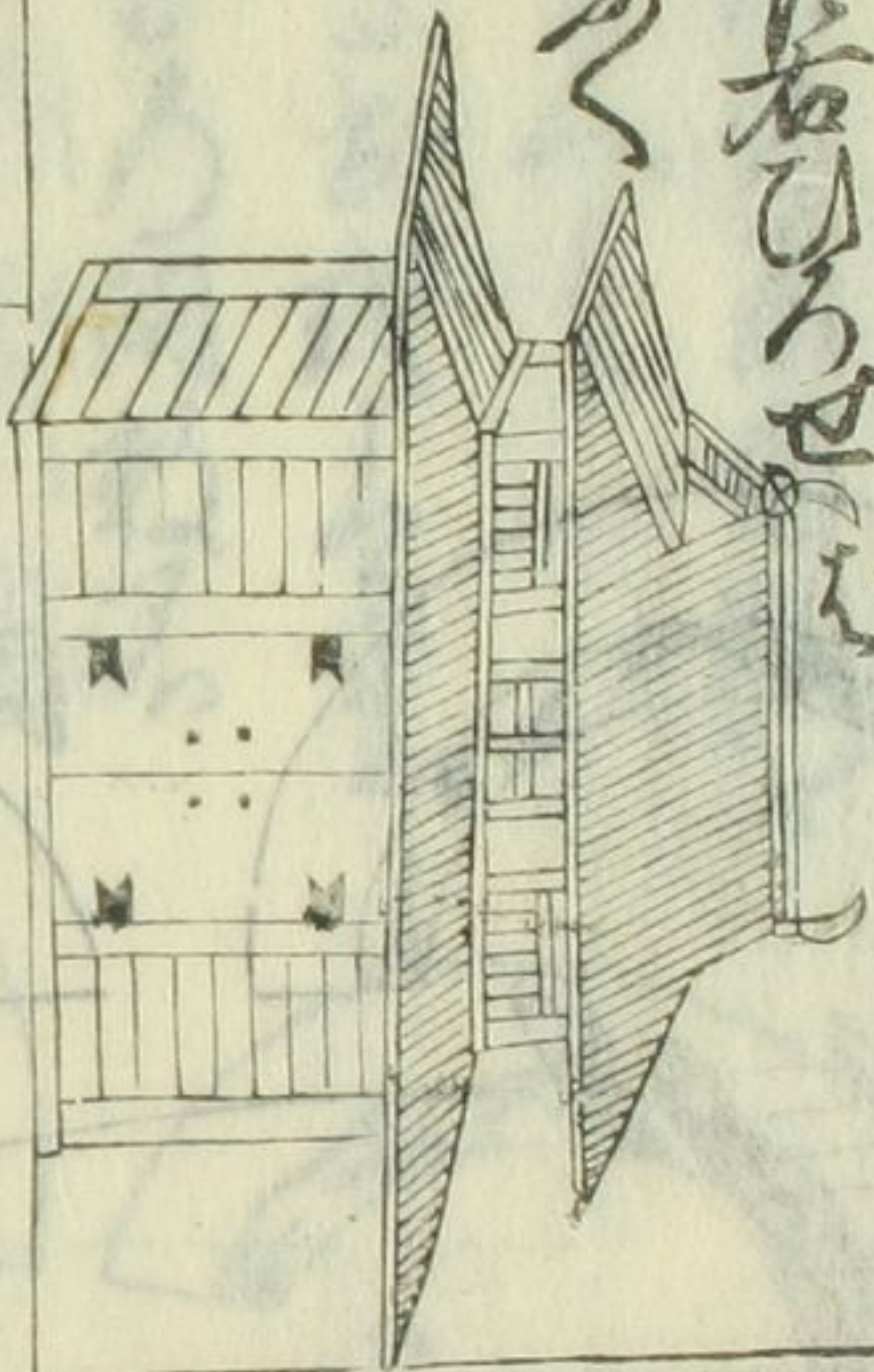
一武者きまむら

一もたむら

一移のらんぐんのゆ

一門は若ひろせむ

一門地く



二ノ門五間

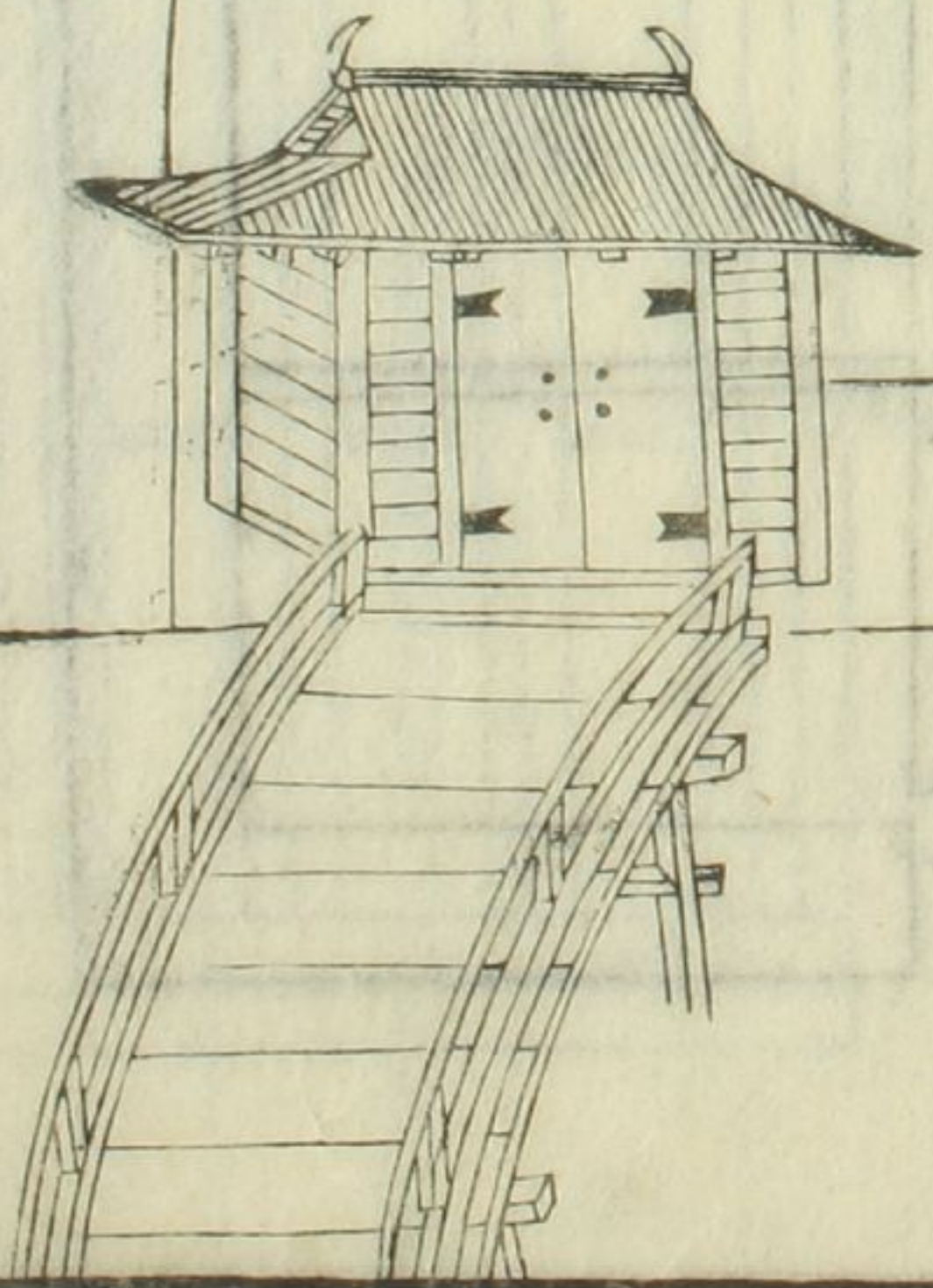
武者たむら

三ノ門

五間

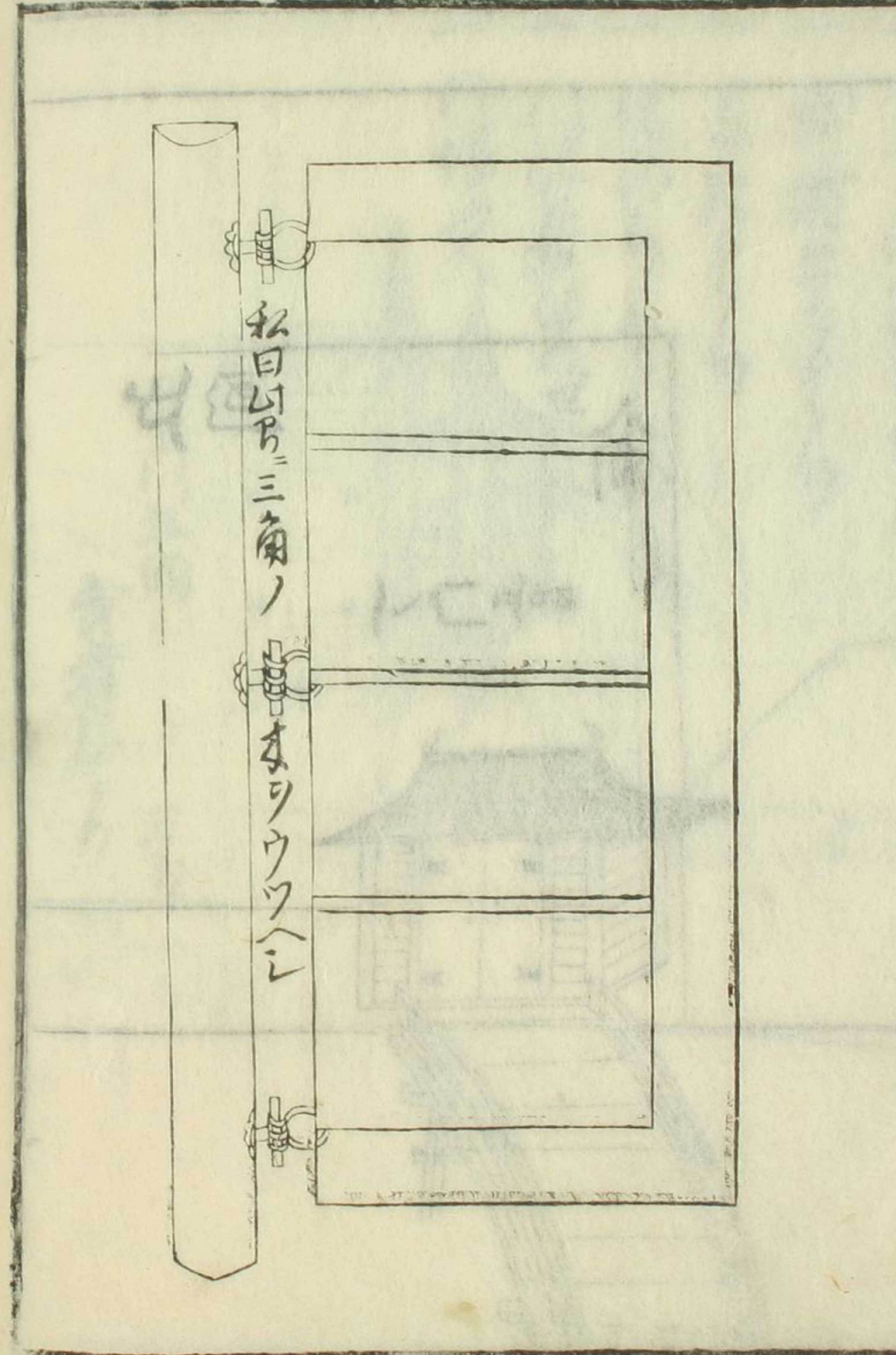
八間

一三ノ門

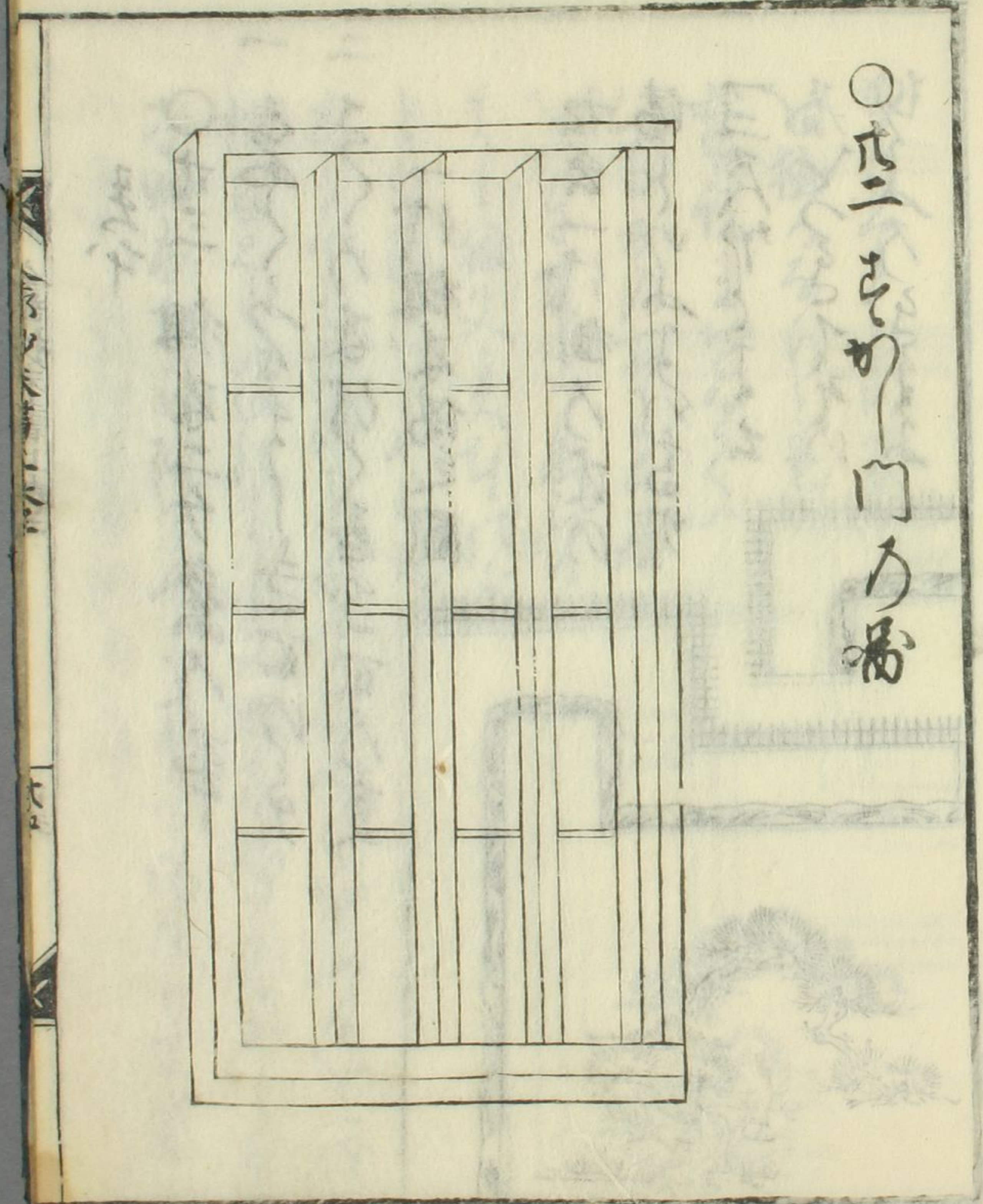


○二十一 門地く

〇二十一 門扉得金圖



〇二十二 門方番



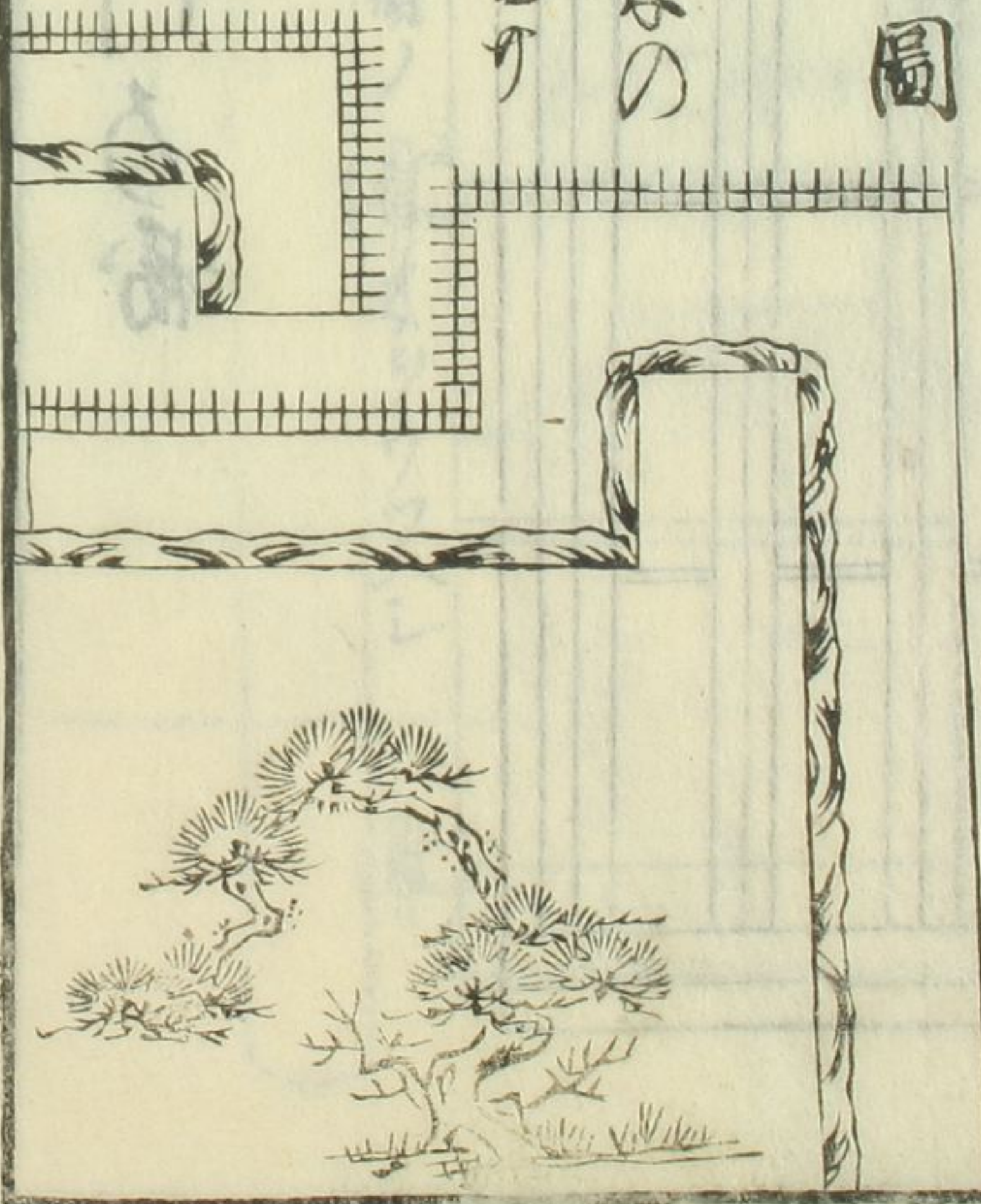
五、

○十三 榎木二ヶ条入り事

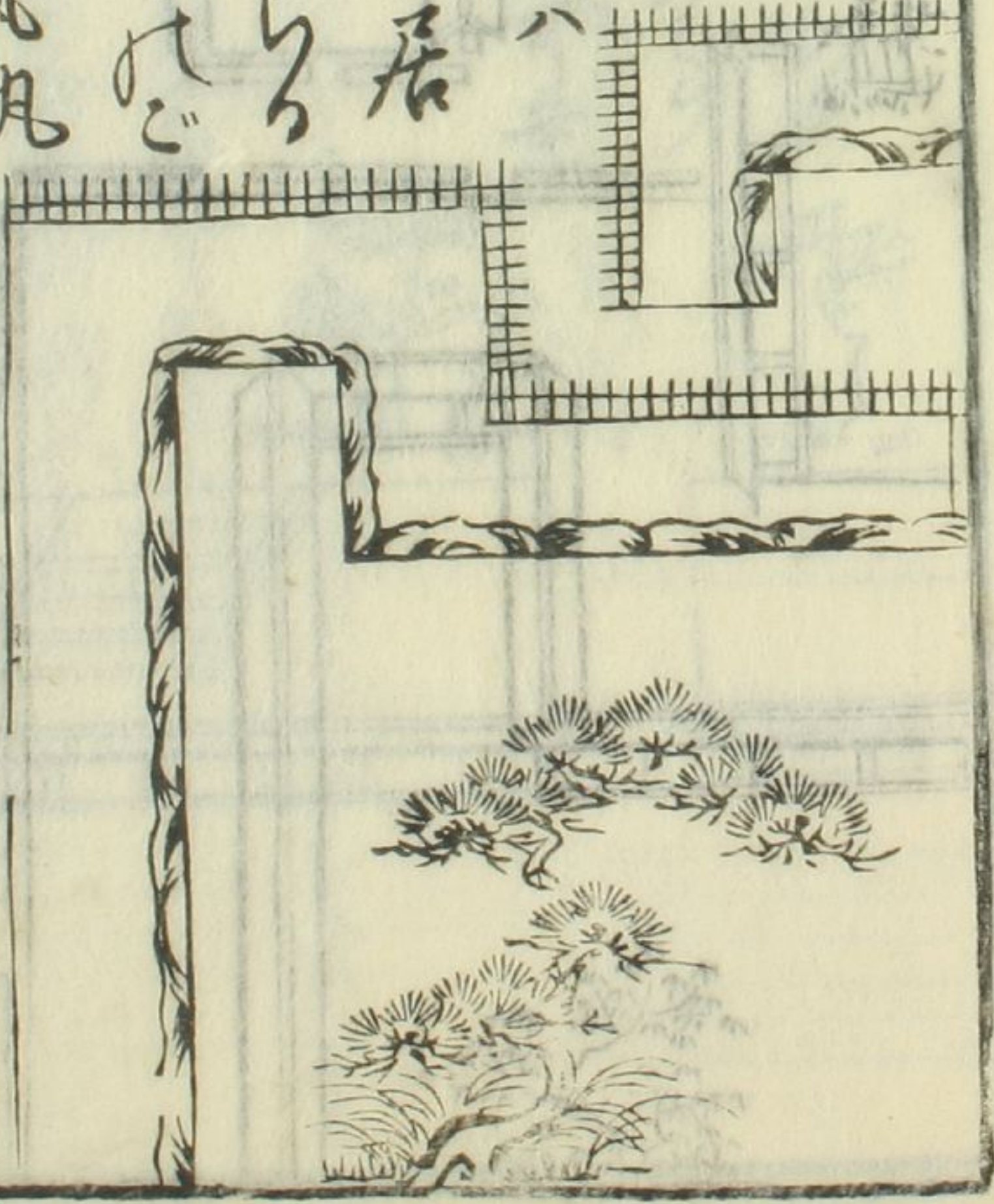
- 一 ちやくくろりまうきさのり
- 二 さくろりまはくちんふりま

一代榎木場之圖

和云一代榎木の
場とつらふりま
二三尺なりと云
居とつらふりま
りふりま

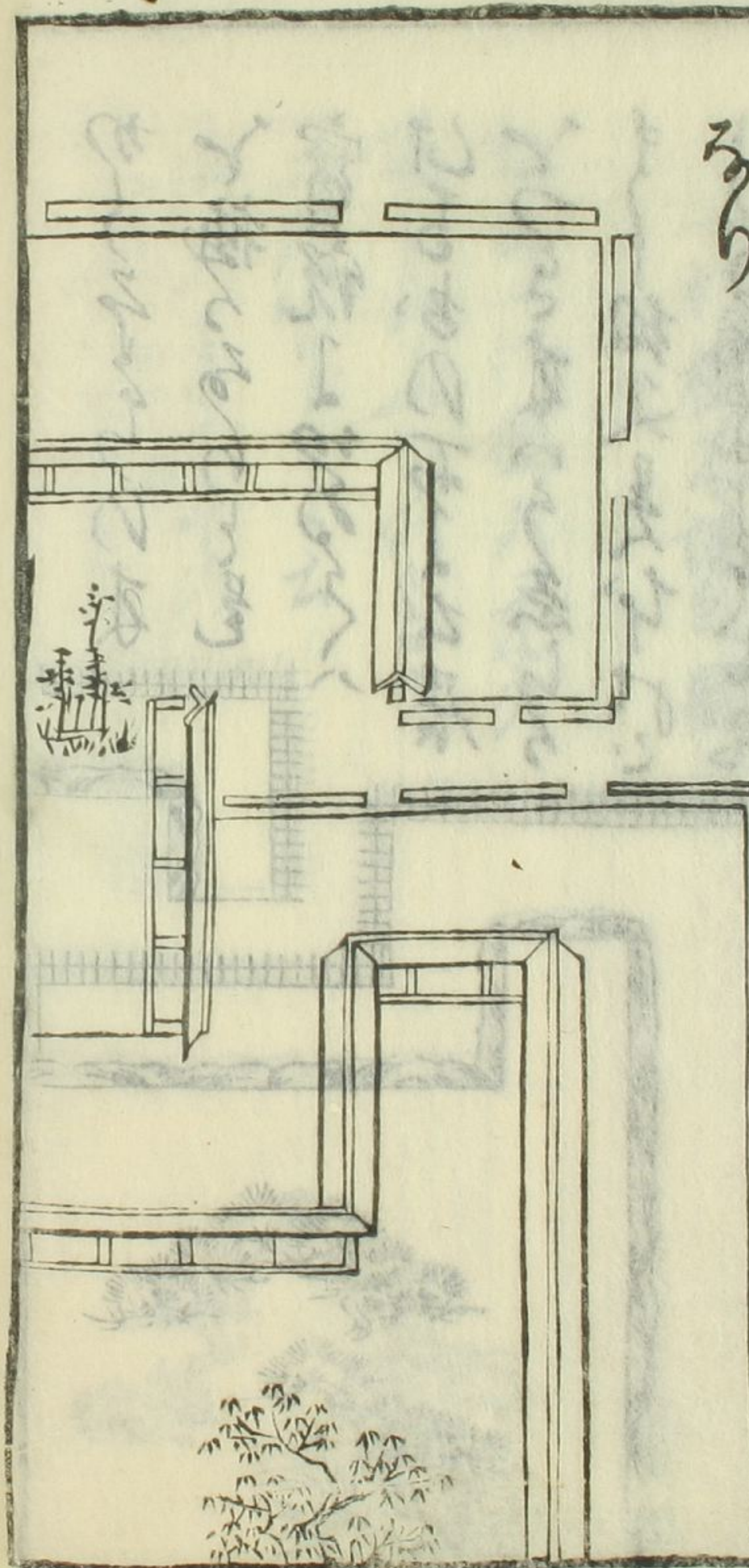


かろりまのま
と榎のりま
實説一、ゆゑハ
けるかのりま
とつらふりま
ま一榎又まはれど
とく角ま一ま丸
ま一まのりま
榎まのりま
子細をちり防

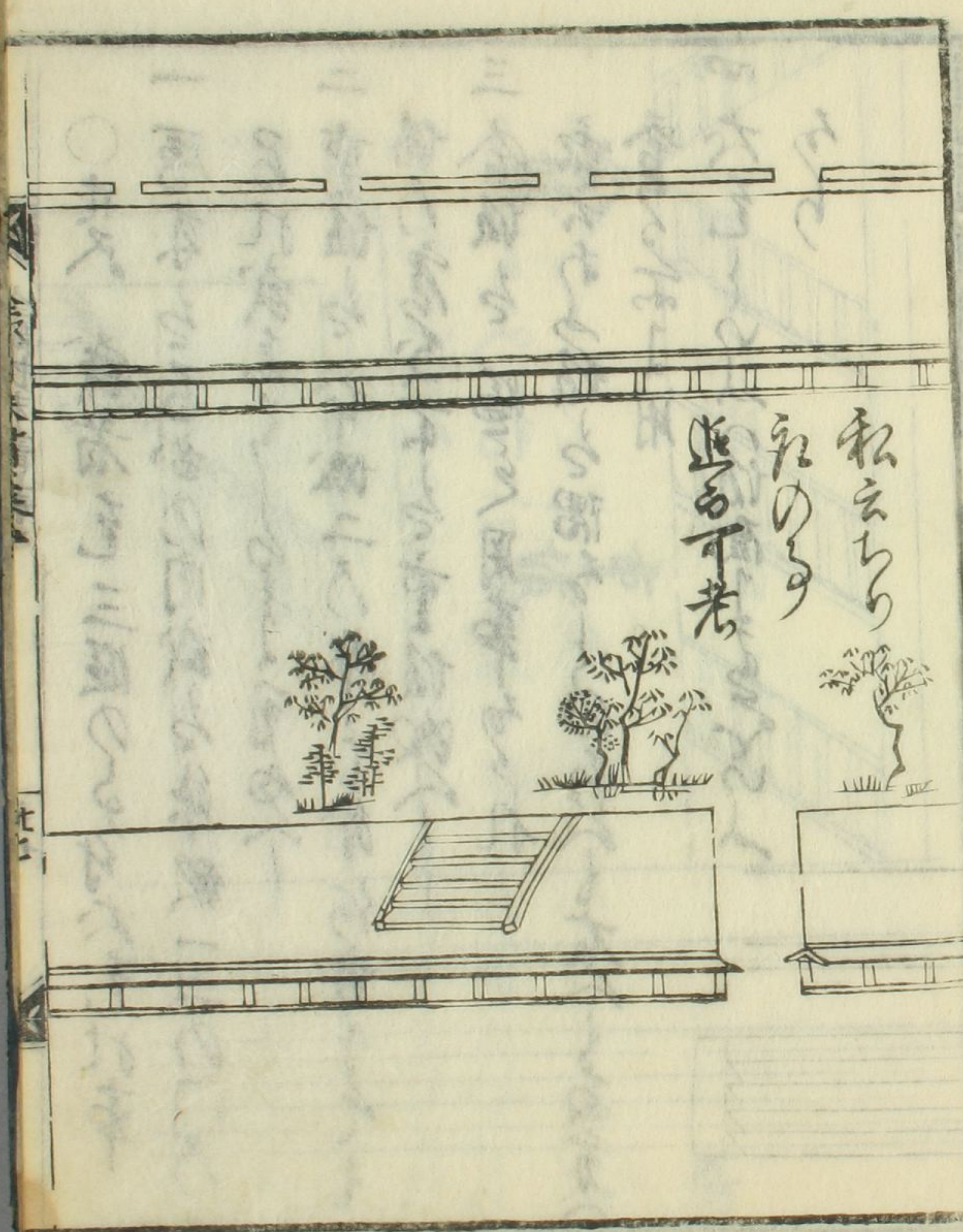


○十四 榎木三ヶ条入り事

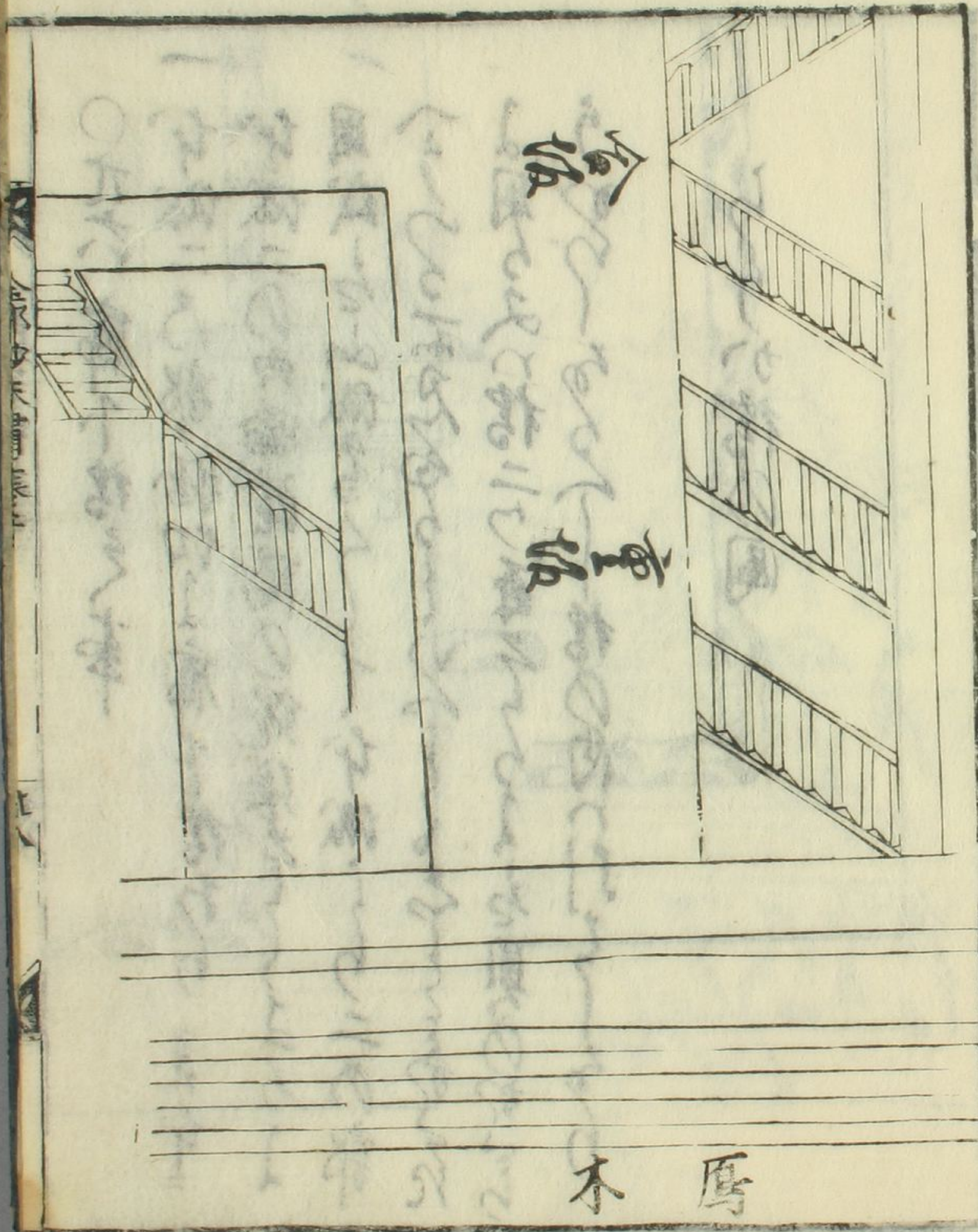
○九四 庭取庭取之事
 一 ちりねちりねをさるる事
 一 ^庭庭取を大人小人除てさるる事
 一 庭取の庭をさるる事
 一 庭取の庭をさるる事



松玄ちり
 庭の事
 庭取可老



○九又 武者を三段のより付たを此奉
 一層来たるおの内或は棟敷一二の門乃
 召れ武者をさしりしより用也
 二重板を付城二の郭を外何方よりても
 場乃底を下と重板敷
 三合板を場と用事ありれ
 和云わの板を隅とよのたへも右へと左方へ
 登るる亦よ用
 四たをとりしは板面よりしり
 あり



金部

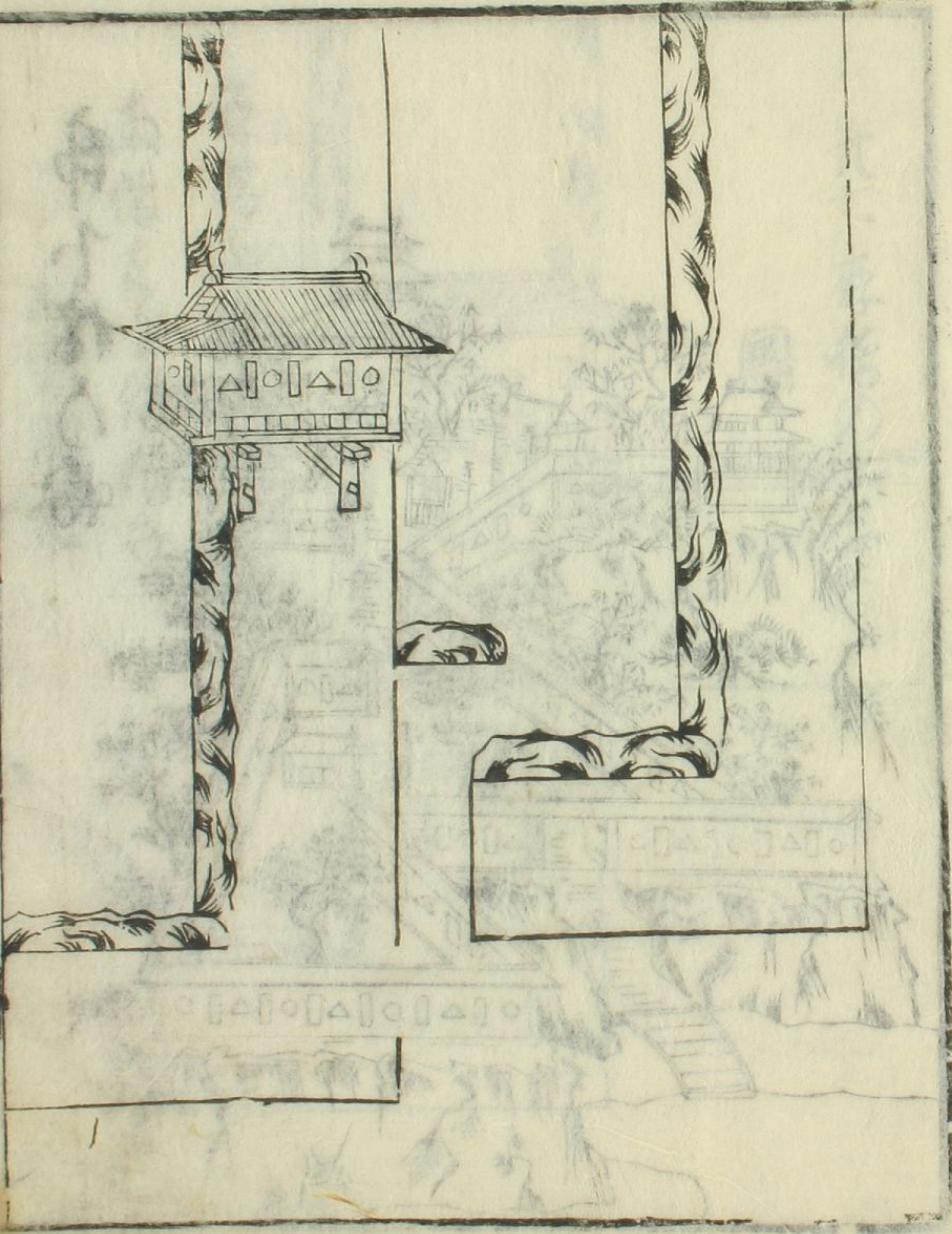
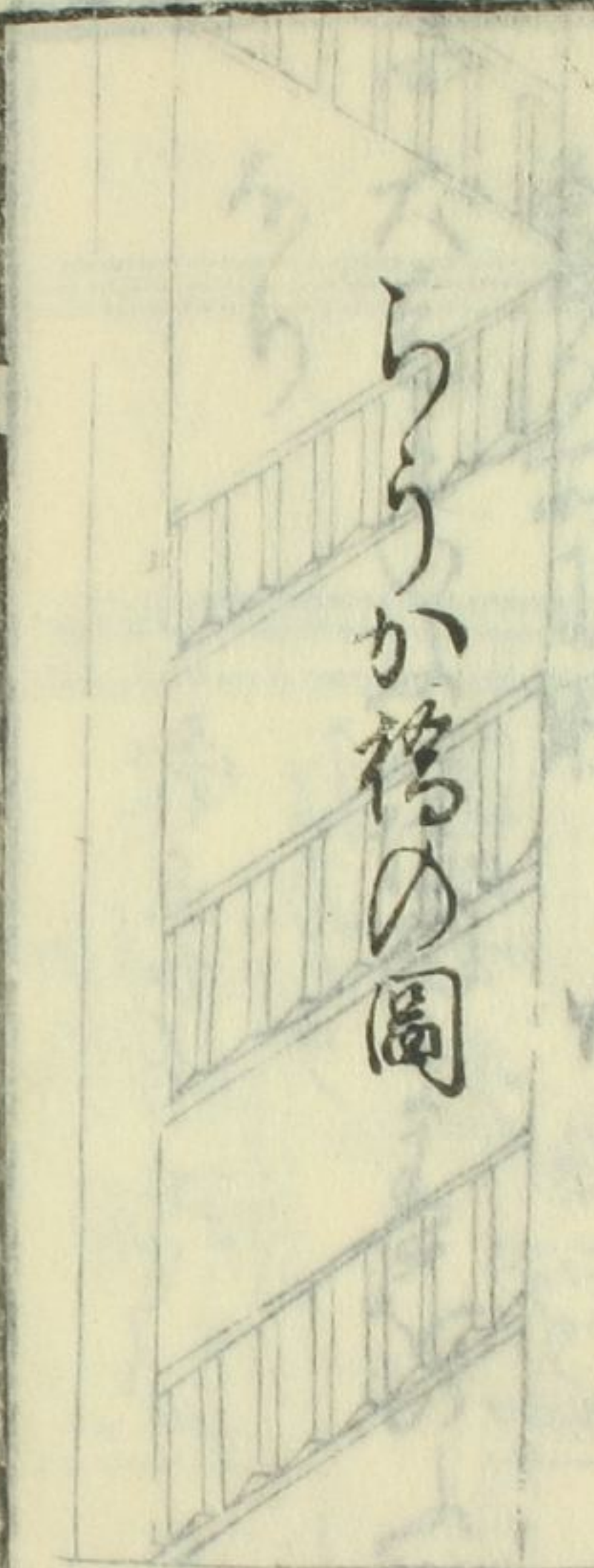
重板

木 厚

○廿六 廊下櫓之事

一 女城二乃郭拵切し廊下櫓あり 且女
女城二の曲輪法陽の繩張をくくさるし
用成を山城よりくくして女城より二の郭
へうつるふらんゆりしりしも志しきかた
よ用り又い櫓二つ毎さらりしを奥の櫓ら
うわがしあるくく櫓の内へ引くくあり

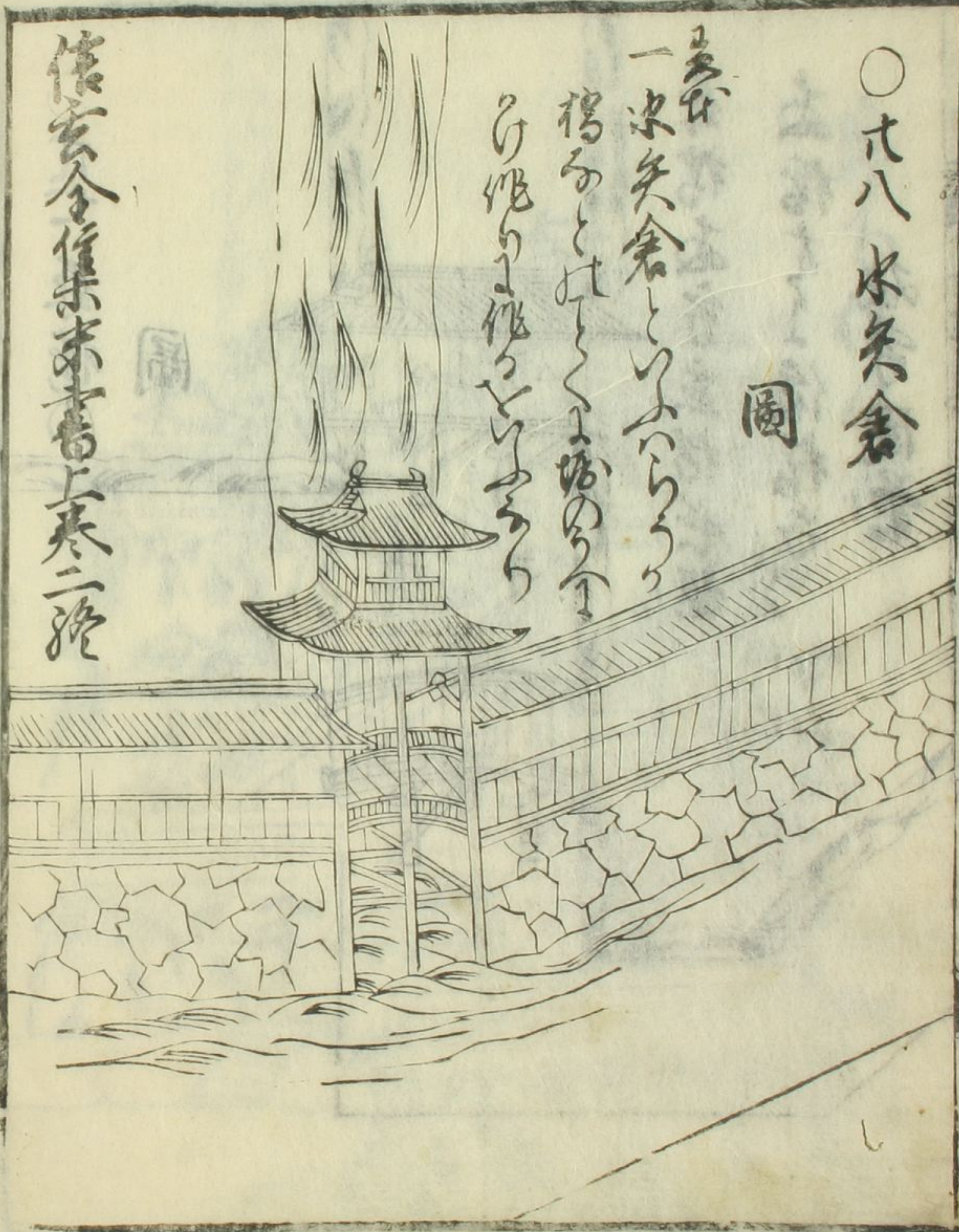
らりか櫓の圖



○六八水矢倉

圖

一水矢倉とつひららう
橋ふとれとくはつたのり
の地りよ作つとらふら



信玄全集末書上巻二終

